

幼児期の教育と小学校教育の 円滑な接続の具現化に関する研究

—子供の発達や学びをつなぐ生活科を中心としたカリキュラムの作成と実施を通して—

《補助資料目次》

【補助資料1】学習指導案様式	1
【補助資料2】グループ協議シートの例	6
【補助資料3】平成30年度湯本小学校第1学年単元配列表（現行）	11
【補助資料4】平成30年度湯本小学校第1学年単元配列表（見直し後，11月）	13
【補助資料5】花巻市「保幼小接続期のカリキュラム」	14
【補助資料6】「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のキーワード	15
【補助資料7】「校内研修会・幼小接続に関するアンケート」（校内研修会直後）の結果	17
【補助資料8】質問紙「校内研修会・幼小接続に関するアンケート」	26
【補助資料9】「校内研修会に関するアンケート（事後）」（校内研修会3か月後）の結果	28
【補助資料10】質問紙「校内研修会に関するアンケート（事後）」	33
【補助資料11】「弾力的な教育活動の構想と，10の姿を生かした生活科カリキュラムの 作成と実施に関するアンケート」の結果	34
【補助資料12】質問紙「弾力的な教育活動の構想と，10の姿を生かした 生活科カリキュラムの作成と実施に関するアンケート」	39
【補助資料13】「単元配列表・単元指導計画の作成と見直しに関するアンケート」の結果	43
【補助資料14】質問紙「単元配列表・単元指導計画の作成と見直しに関するアンケート」	45
【補助資料15】保幼小交流会と連絡会の実施に関する調査の結果	46
【補助資料16】生活科以外での10の姿の見取りの例（特別活動）	54

平成31年3月
岩手県立総合教育センター
長期研修生
所属校 花巻市立湯本小学校
森 田 圭 子

生活科学習指導案

1 小単元名 「ねんちょうさんと、もっとなかよし」 (単元名「ねんちょうさんとなかよし」)

2 小単元の指導について

(1) 児童について

児童は生活科の学習への興味が高く、1学期には、学校探検やアサガオの栽培などの活動に意欲的に取り組んだ。特に学校探検やサツマイモの苗の植え付け等の活動においては、2年生のなかよしペアとの交流を楽しみながら活動した。また、小単元「いっしょにあそぼう」で実施した第1回保幼小交流会後には、「また年長さんと一緒に活動したい」、「もっと仲良くなりたい」という気持ちを学級全体で強くもった。

本学級では、各教科等学習の中で友達と自分の気持ちや考えを伝え合う場を設定し、1学期間を通してペアで話し合う活動から班等のグループで話し合う活動へと発展してきた。相手の話を聞くという姿勢が、学級や全校の集団の中においても伸びてきているが、一方では、授業中に自分から進んで発言する児童は固定的で限られているという実態もある。

(2) 単元について

本単元は、生活科の内容(8)「自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を通して、相手のことを想像したり伝えたいことや伝え方を選んだりすることができ、身近な人々と関わることのよさや楽しさが分かるとともに、進んで触れ合い交流しようとする」に関連している。児童の大半は、自分たちが年長児であった昨年度の2学期に、湯本小学校の一年生と湯本保育園・ゆもと幼稚園の年長児による「なかよし交流会」を経験している。

2学期には、小単元「きれいにさいてね」で育てたアサガオの種を来年度の新生児にプレゼントする計画を立てたり、3学期には生活科の内容(9)「自分の成長」に関わる小単元「もうすぐ2年生」で、来年度の新生児に向けて学校の様子を伝える絵を描いたり、年長児へ向けた意識は継続していき、2年生になってからも新1年生との交流を通しての学習が継続していく。

(3) 指導にあたって

本小単元では、「もっと仲良くなるために、どうしたいか」ということを児童に投げかけ、自分たちで交流会の内容等を考える活動を設定する。交流会について話し合ったり準備を進めたりする中で、自分が交流を楽しむ気持ちだけではなく、年長児の立場に立って関わろうとする気持ちから、考えや工夫が生まれるようにしたい。また、交流会では、年長児が喜ぶことで自分の中に生まれる嬉しさを感じ、進んで関わったり協力したりすることの良さに気付くことができるようにしたい。

3 研究との関わり

(1) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関わりから

本単元に関わる生活科の内容(8)「生活や出来事の交流」は、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」の「協同性」、「言葉による伝え合い」との関わりが深い。これまでに見取った児童の発達や学びを、本単元での活動計画や支援に生かし、児童がもつ力を発揮したり伸ばしたりしながら、単元で目指す資質・能力が育まれていくようにする。

10の姿（「協同性」、 「言葉による伝え合い」）を視点として共有された姿（学級全体）
【7月～8月末】
<p>◇交流会①を通して、年長児と交流する楽しさに気付き、年長児への親しみやさらに関わりたいという思いを学級で共有した。</p> <p>◇班やグループでの話し合いを経験し、友達と意見を交わす中で新しい考えをもったり協力したりしながら活動を進めていくことが増えてきた。また、それらの活動を楽しんだり進んで取り組んだりする姿が多く見られるようになった。</p> <p>◆相手の話を注意して聞こうとするようになりつつあるが、まだ十分ではない。</p> <p>◆学級全体での話し合いにおいて、自分の思いや考えを積極的に表現できるようにしたい。</p>



共有を踏まえた授業の構想
発達や学びをつなぐ活動の設定（学級全体への支援）
<ul style="list-style-type: none"> ・年長児ともっと仲良くなりたいという思いや願いを引き出す単元の導入を工夫する。 ・交流会②の準備や年長児との交流する活動で、共通の目的に向かって考えたり協力したりして取り組めるように、自分たちの思いや願いから生まれた会であることを大切に扱う。単元終了時には、皆でやり遂げた充実感を共有する。 ・第1時での話し合いに基づき、子供の思いや願いを実現するように単元を構想する。 ・交流会②の計画では、グループでの協力が生まれるような活動を考えるように促す。 ・交流会②で、ペアやグループで関わる場面を段階的に設ける。
発達や学びをつなぐ個への支援
<ul style="list-style-type: none"> ・交流会①のペアでの活動の様子から、さらに力を発揮・伸長させることが期待できるグループを編成する。



小単元の目標
<p>年長児との交流会②の準備や交流活動を通して、協力したり相手の立場に立って交流したりすることの良さを感じながら、年長児や友達と進んで関わろうとする。</p>

4 小単元の目標と評価規準

年長児との交流会②の準備や交流活動を通して、協力したり相手の立場に立って交流したりすることの良さに気付き、年長児や友達と進んで関わることができるようにする。

身近な環境や自分についての気付き及び生活上必要な習慣や技能	身近な環境や自分についての思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
年長児と自分の思いを伝え合うことの楽しさや、協力しながら交流する良さに気付いている。	年長児の気持ちを考えて準備をしたり、分かりやすい伝え方を工夫して交流をしたりしている。	年長児と仲良くなろうとして準備をしたり、進んで交流したりしようとしている。

5 単元指導計画（小単元）

（全9時間、生活科7時間＋図画工作科1時間＋体育科1時間）

時	主な活動内容	評価規準
1	「ねんちょうさんと、もっとなかよし」 もっとなかよくなるためのかいをかんがえよう ・年長児担任から、交流会①後の年長児の様子を聞き、年長児との交流への思いや願いを膨らませる。 ・もっと仲良くなるためにはどうすればよいか（交流会の名称・内容等）を話し合う。	・年長児との交流を楽しみにして、交流会について考えようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・年長児の気持ちを考えて、交流会の内容等について考えている。 【身近な環境や自分についての思考・判断・表現】
2 (図工)	プレゼントしたい！なかよしペンダントをつくろう 【図工：合科的な指導】 ・交流会でプレゼントするために、年長児が喜ぶようなペンダントをつくる。	・年長児との交流を楽しみにして、ペンダントをつくろうとしている。 【生活：主体的に学習に取り組む態度】 ・年長児の気持ちを考えて、プレゼントするペンダントについて考えている。 【生活：身近な環境や自分についての思考・判断・表現】 ・交流する年長児が喜ぶようなペンダントの色や形を思い付いている。 【図工：思考・判断・表現】 ・手を働かせて折り紙などの材料を使い、飾りなどを工夫してつくっている。 【図工：知識及び技能】
3	なかよし交流会のしょうたいじょうをかこう 【国語：関連的な指導】 ・年長児に向けて、交流会が楽しみになるような招待状を書く。	・交流会が楽しみになるような招待状を、年長児にとって分かりやすい表現で書いている。 【身近な環境や自分についての思考・判断・表現】
4	しょうたいじょうをおとどけしよう ・保育園・幼稚園に、交流会の招待状を届ける。	・招待状を通して思いを伝えることや、相手が好きことの嬉しさに気付いている。 【身近な環境や自分についての気付き及び生活上必要な習慣や技能】
5	なかよし交流会のじゅんぴをしよう ・グループのメンバーを知る。 ・交流会全体、学校探検、リレー等の流れを知る。 ・学校探検を中心に、年長児に対してどんなことをしたり話したりしたいか話し合う。	・年長児との交流を楽しみにして、交流会について考えようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・年長児の気持ちを考えて、交流会での声のかけ方や行動について考えている。 【身近な環境や自分についての思考・判断・表現】
6 (体育)	くふうしたりおしえあったりして、リレーあそびをたのしもう 【体育：合科的な指導】 ・体の動かし方や用具の扱い方を工夫して、いろいろなリレー遊びをする。	・年長児とのリレー遊びを楽しみにして、活動に取り組もうとしている。 【生活：主体的に学習に取り組む態度】 ・年長児と一緒にリレー遊びをすることを考え、相談したり協力したりしている。 【生活：身近な環境や自分についての思考・判断・表現】 ・リレーのきまりを守り、友達と協力してリレーをしようとしている。 【体育：主体的に学習に取り組む態度】 ・ボール運びリレーの行い方を知るとともに、友達の良い動きを見つけ取り入れている。 【体育：思考・判断・表現】
7 ・ 8	なかよしこうりゅうかいで、もっとなかよしになろう 〈保幼小交流会②〉 ・ペアの年長児にペンダントをプレゼントする。 ・ペア・グループの友達とふれあい遊びをする。 ・グループの友達と学校探検をする。 ・グループで協力しながらリレーを行う。 ・楽しかったことを伝え合う。	・年長児への親しみをもち、進んで話しかけたり遊んだりしようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・年長児の気持ちを考え、声をかけたり、相談したりしながら活動している。 【身近な環境や自分についての思考・判断・表現】

9	<p>ねんちょうさんともっとなかよくなったことをつたえよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 交流会をふりかえり、年長児と関わった様子や気持ち、年長児に伝えたいことを絵や言葉でカードに表し、交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> 年長児の気持ちを考えた交流の良さや楽しさに気付いている。 <p>【身近な環境や自分についての気付き及び生活上必要な習慣や技能】</p>
---	---	---

生活科学習指導案(第9時 略案)

日 時 平成30年10月2日(火) 5校時

1 小単元名 「ねんちょうさんと、もっとなかよし」 (単元名「ねんちょうさんとなかよし」)

2 第9時の学習指導

(1) 本時の目標

なかよし交流会での自分の言動や年長児の様子を振り返り、年長児の気持ちを考えた交流の良さや楽しさに気付き、絵や言葉で表現することができる。

(2) 本時の評価規準

年長児の気持ちを考えて交流することの良さに気付いている。

【身近な環境や自分についての気付き及び生活上必要な習慣や技能】

(3) 本時の目標につながる10の姿(キーワード)

協同性	共有	目的共通の	工夫、考え、	協力	充実感
言葉による伝え合い	心を通わせる	表現豊かな言葉や	言葉で伝える	聞く注意して	伝え合い

(4) 本時の展開

	主な学習活動	教師の支援(◆キーワードに関わる支援, ※評価)
導入	1 前時の学習を想起する。	<p>◆なかよし交流会での年長児の様子について想起させ、年長児ともっと仲良くなれたことを喜び合う。</p> <p style="text-align: right;">[充実感]</p> <p>・自分が年長児のためにできたことや思ったこと、そのときの年長児の様子を紹介することを確認する。</p>
5分	<p>2 本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ねんちょうさんと、もっとなかよくなったことをつたえよう。</p> </div>	

<p>展 開</p> <p>25 分</p>	<p>3 なかよし交流会を振り返る。</p> <p>(1) 年長児のことを考えてとった自分の言動や、その際の年長児の様子や自分の気持ちを思い出す。</p> <p>(2) 自分や年長児の言動や様子、気持ち、年長児に伝えたいことを、絵や言葉でカードに表現する。</p> <p>(3) カードに表したことを、学級全体で交流する。</p>	<p>◆それぞれの活動の場面で、年長児の気持ちを考えてどんなことをしたり話したりしたのか、数名の話を聞く。 言葉で伝える</p> <p>◆自分の言動だけでなく、年長児の反応や様子も表現するように声をかける。 充実感 豊かな言葉や表現 言葉で伝える</p> <p>◆思い付かない子供には、なかよし交流会の内容を示し、年長児と一緒に楽しく活動することができた場面を想起させる。</p> <p>※年長児の気持ちを考えて交流することの良さに気付いている。 【身近な環境や自分についての気付き及び生活上必要な習慣や技能】</p>
<p>結 末</p> <p>5 分</p>	<p>4 本時の学習を振り返る。</p>	<p>◆年長児も自分も嬉しかったこと、ますます仲良くなれたことを取り上げ、相手の気持ちを考えて交流する良さに気付かせる。 充実感</p> <p>◆これからも年長児と関わっていききたいという思いを膨らませる。</p>

【補助資料2】グループ協議シートの例

Bグループ	
4名： 小学校3名，幼稚園1名	
<p>・様々な遊びの場で付箋紙を整理した後，それぞれの場において現れていた「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」の項目を話し合った。<u>同じ遊びの中にも複数の姿が含まれていた。幼児期の教育における，遊びを通しての総合的な学びについての理解が深まった。</u></p>	
<p>実際の協議シート</p>	
付箋紙・協議シートへの記入内容	
<p>色水</p> <ul style="list-style-type: none"> ・玉子パック 色水を均等に分ける。 ・絵の具出ない。「おれに貸して」 ・道具を使って水を入れる。 ・色水混ぜている。→色を作る。 <p>数量 協同性 思考力 感性</p>	
<p>デザート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザートのおかわりを次々と作って差し出してくれた。③ <p>社会生活 自立心</p>	
<p>タオル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小プールで水の感触を楽しんでいた。② ・たらいでタオルを絞る。経験。かわかす。「できたね」教師とのやりとり。安心感 ② <p>感覚</p>	
<p>楽しい場の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園庭に入って「楽しい」と思った。おまつりかと思うくらい全体が一緒に取り組んでいる。 ・場の設定の工夫がよい。 ・釣りに執着せずに各コーナーを回って楽しんでいた。⑤ ・試したくなる材料がいっぱい。樋 ポンプ 絵の具 障子 	
<p>障子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水をどのくらいかければ破ける。 ・容器を使った的あて。力の加減調整。 ・障子に水がかげられない。ボトルを振ってかけられた。④ ・A君，始め水鉄砲でやっていたがパンチになった。それを年長女の子が「だめ」とも言わずしなやかだった。③ ・障子的あて。反対側から倒す。友だち「だめだよ」③ <p>注意のしかた 声かけ，かかわり方 → よりよい人間関係→周りを育てる 伝え合い 感覚 思考力</p>	

ガソリンスタンド

- ・ガソリンスタンドごっこ 小さいものから大きな容器に移す。④
- ・ポンプで水を入れる。「ガソリン満タン」
- ・袋に水を入れていたB君，どうやって水を入れようか試している。ポンプでふみ台も使って。

社会生活 数量 思考力

釣り

- ・自分たちが作った釣りゲームに集中していた。⑤
- ・いろんな釣り竿，手作りもあった。
- ・「おいしいね」，「サメだ」，「マグロだ」と会話をしながら集中している。
- ・釣る物によって針をつけかえたり，針の形を工夫したりしていた。

協同性 思考力

水の流れ

- ・水が流れる所→水路
- ・樋が低い。大きなかごを持ってきて高さを出そうとしていた。④

思考力

染め物

- ・2・3人の女の子，ペーパータオルで色をつけ干していた。「何を作っているの」と聞いたら「お洋服なの」その2人が「乾くまで水鉄砲しよう」とその時間を有効に遊んでいた。

自立心 自然

雨シャワー

- ・「雨だ」→シャワー

豊かな感性

※太字は，協議シートへの記入。それ以外は，付箋紙への記入
※文末の○付数字は，園児が何歳児クラスであることを表している

Dグループ

5名： 小学校3名，保育園1名（授業者のため付箋紙の記入なし），幼稚園1名

- ・様々な遊びの場で付箋紙を整理した後，それぞれの場で発揮されていた子供の力や，遊びが発展していく様子について話し合われた。
- ・園の教職員による子供に寄り添った視点での見取りをもとにした子供理解や，園で行われている子供への援助等について話し合われた。

実際の協議シート



◎もめる姿がない

言葉の伝え方については、全職員で気をつけている。

「他の伝え方はないのかなあ……」子どもと一緒に大人も考える。「考えてごらん」と返すこと。

プール

感性

自然とのかかわり

- ・走り回り、頭から水をかける。⑤
- ・ペットボトルの水をプールから汲み、繰り返し水を落下。手で止めたり落とす場所を変えたり、水の流れるを楽しむ。③
- ・ばたばた→連鎖。③
- ・プール脇の水。よりかかるとこぼれる。「わー！」2人で。③

- ・釣りができるように、キャップをひっかかるように浮かべた。④
- ・とれた魚をはずして、カゴに入れる係をしていた。⑤
- ・魚釣り。釣り糸をリングに入れて捕る。⑤4人④2人

- ・ホースで水をまくとき、ホースをつかむと遠くまでとばせる。④
- ・「いいよ」、バケツにホースの水を入れる。④

- ・洗濯ごしごし。しぼる、干す。「できたー」と先生に伝える。上手だね。認める。安心。②

安心できる場所。

2歳児コーナー

小プール。干す物。・しぼる。・干す。

色水

協同性

- ・バケツに水を移す。大ペットボトルから小ペットボトルの水。「どうやってやるの」と教師に聞く。③
- ・レンゲで水を入れる。③
- ・コップから隣のコップに色水を移す。④
- ・自分もぶどうジュース作ると、指で色をとり合わせる。(黄に赤・青など)④
- ・ボウルで色水を作り、隣の男児と泡立てる。③
- ・レモンジュースの続き。「あれ？まだ黄色だな」、緑のチューブを入れる。③
- ・「どうやってやったの？」緑。「これ入れて、あと黄色入れてやったの」黄緑。「これがレモンジュース。」③
- ・じょうごを使って色水を入れている。じっと見つめる。4歳児がいなくなると、すうっと入ってきてまねっこして遊び始める。②
- ・「ブーってなったよ」、大笑い。やってみて、「ならないね……」, 「こっちは?」, 「なったよ。中に入っていないからならないのかな。」③
- ・2歳児が洗面器の水を流してしまう。A児が「だめだよー！」と声をかけるが、笑いながら行ったり来たり。「もうー、まったくー！」

まとめて

毎回、思考錯誤。発展していく。目的を言語化。

道徳性 自立心 思考力

- ・B児が的をやぶるのを、女2人で笑って見ている。⑤
- ・4歳児が的あて(水)近づこうとすると、「だめだよ」⑤
- ・的あての障子をグーで破る。見ていた女も一緒にやり始める。③
- ・「全部ぬらしちゃおう！」出なくなる。ふたを開けて振る。手でかける。④
- ・C児、男。的あて(水)で障子を破ろうとして教師に止められる。しかし、やり続ける。③
- ・「届く！」より高いテントへ。「あそこまで届くと思う？」届かず、ジャンプしてみる。④
- ・紙をぬらす(全部)ことのため、途中からボトルのふたをはずして水をかけた。④
- ・頭に偶然かかる……。かけちゃう。破れる→ジャンプ、破く。④

流しそうめん

言葉による伝え合い

上の子も下の子も折り合いをつけて、意志も伝えている。

- ・流しそうめん、楽しそう。⑤
- ・流しそうめんを止める男に「やめてちょうだい」と伝える。⑤
- ・そうめんがなくなった。女「ちょうだい」、男4歳「だめ」、女「なんで？使いたいんだよ。かして」男「わかったよ」少しあげる。 思いを伝える。気持ちの折り合い。

※枠囲み（点線）は、協議シート上での付箋紙の分類を表している

※太字は、協議シートへの記入。それ以外は、付箋紙への記入

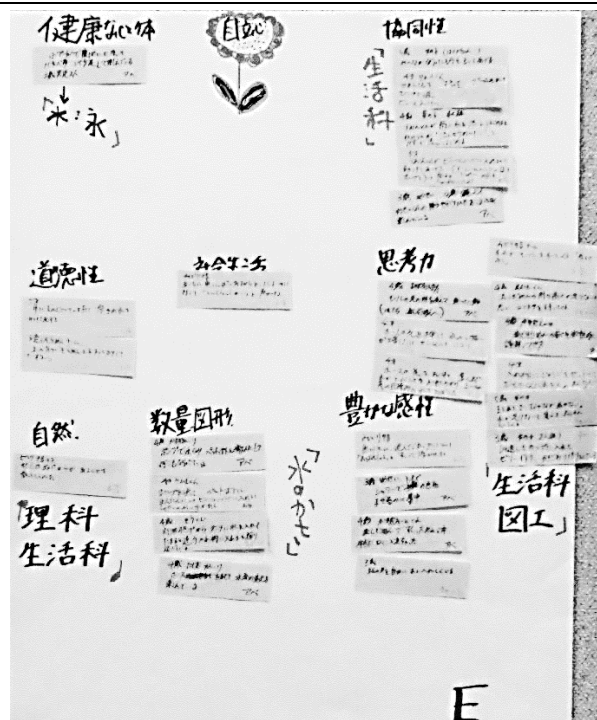
※文末の○付数字は、園児が何歳児クラスであるかを表している

Eグループ

4名： 小学校2名，保育園1名（授業者のため付箋紙の記入なし），幼稚園1名

- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の項目で、付箋紙を分類し直している。遊んでいる子供の具体的な姿を通し、遊びの中にある学びを捉え直した。
- ・園児の学びが小学校の教科の学習にもつながっていくことも話し合われた。

実際の協議シート



付箋紙・協議シートへの記入内容

健康な心と体

- ・小プールで腹ばいになってバタバタとバタ足して楽しんでいる3歳男児2人。③

水泳

自立心 ……全ての遊びで見られた（代表の発表より）

（なし）

協同性 生活科

- ・みんなが釣ったものを取ってあげる。⑤
- ・A君を誘ってプールの水をポンプで水ビニール袋へ。④
- ・B君が、筒に水を流し始めると他の③人が「流しそうめんだ！」と全員で流し始める。⑤
- ・C君がビニールバッグに入れるのを助けてあげる。（ビニールバッグの口を広げて）自分はシャワーの水を入れ物に入れて。⑤
- ・D君の障子破りにも怒ることなく楽しんでいる。④

道徳性・規範意識の芽生え

- ・手に絵の具がついている子に容器の水をかけてあげる。⑤
- ・流しそうめんチーム。上の方でそうめんを取る子に対して「ずるい」。

社会生活との関わり

- ・「あっちに魚いっぱいあるから取ってくる」に対して「行ってらっしゃい」と声をかける。④

思考力の芽生え

- ・モールの先の形を変えて魚釣りに夢中。釣れたら流しそうめんへ。④
- ・ホースの先を押して水の勢いが増したことを確認してニコリ。④
- ・ホースの先を押すと遠くまで水が飛ぶことを面白がり、2～3メートル先の目標物に水を飛ばした。④
- ・先生がモールを持ってくる。「考えてみて」④
- ・流しそうめんの筒の高さが足りないと思い、コンテナを持ってくる。④
- ・流しそうめんの高さを出すために桶を持ってきた。④
- ・入れ物にじょうごをセットして入れ、満タンにする。④
- ・的当てで、なかなか（穴が）開かない。水が足りないと気づき、たくさん持ってくる。⑤
- ・紐通しをカップに入れてゼリー作り、かき氷作りをしている。③

自然との関わり・生命尊重

- ・セミの抜け殻があることを教えてくれた。②

理科・生活科

数量・図形、文字等への関心・感覚

- ・ポンプで水汲み。ペットボトルに満タンにして何個も並べている。④
- ・ポンプを使ってペットボトル満タンに。ビニールバッグに入れるとシャワーのように水が出る。④
- ・灯油ポンプからタンクに水を入れて、溜まると違う入れ物に入れる、を繰り返している。④
- ・ホースを押して、水流の変化を楽しんでいる。④

水のかさ

豊かな感性と表現 生活科・図工

- ・魚釣りチーム。沈んだカップについて「溺れている」と、すくって浮かせた。④
- ・シャワーでトレイの色を混ぜるのに夢中。③
- ・流しそうめんで作った麺1本、本当に口に入れちゃった。④
- ・絵の具を自由に出し入れしている。③

※太字は、協議シートへの記入。それ以外は、付箋紙への記入
※文末の○付数字は、園児が何歳児クラスであるかを表している

【補助資料 3】平成 30 年度湯本小学校第 1 学年単元配列表（現行）

（本ページ及び次ページ）

		1 学期						2 学期				3 学期		
学期 月		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月	
国語	遊ぶ 2 楽しんで遊ぶかな 2 どんなお話をしようか 2 どうぞよろしく 3 こそのお話を、どうするの 3 1 うたにあわせてあいう えお 2 2 ことばをつくるう 2 えをみてはなそう 1 	えをみてはなそう 1 かまどかき 2 おまじゅうのおひさま 1 はなのみち 7 おんまつくろう 3 ねことねっこ 2 わけをはなそう 2 おはさんとおはあさん 1 	おはさんとおはあさん 1 0 おもちやとおもちや 2 おもいだしてはなそう 3 あいうえおであそぼう 3 おおきくおっせ 4 あひすひころりん 7 たからものえおしえよ 1 2 	うちからものをあおしえよ 1 2 何をへをつかさう 3 すきなこと、なかに 4 おおきなかぶ 8 ほんばとものはら 2 こんふことをしたよ 6 	いちねがむくのうた 3 なつやすみのこと話を なせう 6 ひらがながあつまれ 2 ゆうやけ 4 	ゆうやけ 6 かなたのなをみつげよう 2 うみのかくれんぼ 0 かすとかんし 5 くしらくも 5 	かん字のかきかた （黒）2 かん字のかきかた （青）2 つくろあそぼう 3 じぶんでできるよ 5 じぶんでできるよ 4 	かん字のかきかた （黒）4 かのしんあきいっほい 5 つくろあそぼう 6 たのしいあきいっほい 7 どちらが面白い 5 どちらが面白い 3 3つのかすのけいさん 2 どちらが面白い 4 	かん字のかきかた （黒）2 ひつじゅん 1 かん字のかきかた （黒）2 ひつじゅん 1 つくろあそぼう 3 じぶんでできるよ 5 ひきざん 6 かん字のかきかた （黒）2 ひきざん 5 かん字のかきかた （黒）9 ひきざん 3 どちらが面白い 1 	てがみでしらせよう 6 たぬきの糸車 6 	たぬきの糸車 2 ことばをたのしもう 2 4 これは、なんてしよう 4 どうぶつのあつちゅう 2 2 にているかん字 3 だつてだつてのおぼあさん 3 	だつてだつてのおぼあさん 5 いいこといっぱい、一年生 12 		
算数	1 2 3 4 5 6 7 8 	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 	

学期		1 学期							2 学期							3 学期		
月	学月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	学月	1 月	2 月	3 月	
音楽	うたでさんぽ		ぞうさんのさんぽ・てとてであいさつ	かたつむり	はなひらひら	かたつむり	あつはちのほけり	おどるこねこ	きらきらほし									
	ぞうさんのさんぽ・てとてであいさつ		ひらいたひらいた	じゃんげんぼん	ことばでリズム	たんぐりさんのおうち	たれみでめいさつ・どれみでまねっこ	おどるこねこ	おどさし									
			さんぽ	みんなであそぼう	うみ	1.5	ななよし・どれみあそび	はるなつあきふゆ	ほしぞらのおんがく									
			なまねあそび	しろうまのジェンカ	しろうまのジェンカ	せんせいあね	せんとく	あそびのまねっこ	シンコベータードク	(みんなでのしく)								
図工	たのしい絵画もしろいな		どんとんがくのほたて	いさいろなかたたちのかみから	せんせいあね	コロコロペったんジャ	やあいのたから	でこぼこはっけん!										
	かたちやいろをたのしもう		チョキチョキかさり	ひももねんど	おっててなら	あふいたかたから	いろいろななはこから	はこでつくったよ										
			すなやちとなかよし	せんせいあね	せんせいあね	あそびのまねっこ	あそびのまねっこ	はこかざるん	のってみだいなき									
	どんとんがくのほたて		いさいろなかたたちのかみから															
体育	陸上施設・遊具遊び		リズム遊び	ボール遊び	水遊び	水遊び	か行足・マラソン	マット跳び箱遊び										
	体つくり運動		飛遊び	固定施設・遊具遊び	ハードル・リレー	ハードル・リレー	ボール投げゲーム	リズム遊び表遊び										
			かけっこ・リレー	飛遊び	かけっこ	かけっこ	体つくり運動	ボール投げゲーム										
道徳	あかるいあいさつ		はりきりいちぬみせい	きんのおの	げんきでね、あげはく	ほくのごと	みらいにむかって	じしんが起きて										
			かほちやのつる	めだかのめく	おかしくないかな	ほくのごと	どなりのジェニーちゃん	くりのみ										
			ほくはきゅうしよくと	じゃんげんぼん	じゃんげんぼん	強いよのたまご	大まき、わたしたちの	ほっかほか										
			はやとのゴール	おしいちゃんのたんざ	おしいちゃんのたんざ	はちさんのハンジ	ノンノン だいじょうぶ	はしの上のおおかみ										
特別活動	陸上施設をめぐりよう		やのたい仕事をくつけ	きれいに倒置き	習体めぐり	さあ2学期に	地盤のどきの遊軍	かぜにまひない体										
	学校のきまり		道路をわたる	男の子女の子	七夕かざりを作ろう	安全な登下校	悪天候の日の道の歩き	悪天候の日の道の歩き										
	きょうから一年生		楽しい運動会	火事のできの避難	あふない遊び	隣の交代をしよう	お祭りでの約束	好き嫌い										
	遊具の出し方		掃除の仕方	掃除の仕方	暑氣、生活の区	本の借り方返し方	本の借り方返し方	本の借り方返し方										
		楽しいプール	楽しいプール	楽しいプール	本の借り方、返し方	本の借り方、返し方	本の借り方、返し方	本の借り方、返し方										
		トイシ、流し、靴箱	トイシ、流し、靴箱	トイシ、流し、靴箱	本の借り方、返し方	本の借り方、返し方	本の借り方、返し方	本の借り方、返し方										
		結実のマナー	結実のマナー	結実のマナー	結実のマナー	結実のマナー	結実のマナー	結実のマナー										
		よい姿勢	よい姿勢	よい姿勢	よい姿勢	よい姿勢	よい姿勢	よい姿勢										
		玩具にあいさつ	玩具にあいさつ	玩具にあいさつ	玩具にあいさつ	玩具にあいさつ	玩具にあいさつ	玩具にあいさつ										
		陸上施設をめぐりよう	陸上施設をめぐりよう	陸上施設をめぐりよう	陸上施設をめぐりよう	陸上施設をめぐりよう	陸上施設をめぐりよう	陸上施設をめぐりよう										

【補助資料4】平成30年度湯本小学校第1学年単元配列表（見直し後、11月）

平成30年度 花巻市立湯本小学校 第1学年単元配列表

試采(8月)
見直し(11月)

学校教育目標

1. 豊かな心でたくましく生きる 湯本っ子の育成

目的・到達目標

第1学年 総合目標

- ① 自ら学び、自ら考え、自ら行動する子ども
- ② 思いやりや助け合いの心をもつ子ども
- ③ 元気に活動する子ども

生活科の各単元の主たる内容 (1) 学校と生活 (2) 家庭と生活 (3) 地域と生活 (4) 公共物や公共施設の利用 (5) 季節の変化と生活 (6) 自然や物を使った遊び (7) 動物の飼育・栽培 (8) 生活や出来事の流れ (9) 自分の成長

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	かなでなでたくましく生きる	はなはなしく生きる	はなはなしく生きる	はなはなしく生きる	はなはなしく生きる	はなはなしく生きる	はなはなしく生きる	はなはなしく生きる	はなはなしく生きる	はなはなしく生きる	はなはなしく生きる	はなはなしく生きる
書写	1. はなはなしく生きる	2. はなはなしく生きる	3. はなはなしく生きる	4. はなはなしく生きる	5. はなはなしく生きる	6. はなはなしく生きる	7. はなはなしく生きる	8. はなはなしく生きる	9. はなはなしく生きる	10. はなはなしく生きる	11. はなはなしく生きる	12. はなはなしく生きる
算数	1. はなはなしく生きる	2. はなはなしく生きる	3. はなはなしく生きる	4. はなはなしく生きる	5. はなはなしく生きる	6. はなはなしく生きる	7. はなはなしく生きる	8. はなはなしく生きる	9. はなはなしく生きる	10. はなはなしく生きる	11. はなはなしく生きる	12. はなはなしく生きる
生活科	1. はなはなしく生きる	2. はなはなしく生きる	3. はなはなしく生きる	4. はなはなしく生きる	5. はなはなしく生きる	6. はなはなしく生きる	7. はなはなしく生きる	8. はなはなしく生きる	9. はなはなしく生きる	10. はなはなしく生きる	11. はなはなしく生きる	12. はなはなしく生きる
音楽	1. はなはなしく生きる	2. はなはなしく生きる	3. はなはなしく生きる	4. はなはなしく生きる	5. はなはなしく生きる	6. はなはなしく生きる	7. はなはなしく生きる	8. はなはなしく生きる	9. はなはなしく生きる	10. はなはなしく生きる	11. はなはなしく生きる	12. はなはなしく生きる
図工	1. はなはなしく生きる	2. はなはなしく生きる	3. はなはなしく生きる	4. はなはなしく生きる	5. はなはなしく生きる	6. はなはなしく生きる	7. はなはなしく生きる	8. はなはなしく生きる	9. はなはなしく生きる	10. はなはなしく生きる	11. はなはなしく生きる	12. はなはなしく生きる
体育	1. はなはなしく生きる	2. はなはなしく生きる	3. はなはなしく生きる	4. はなはなしく生きる	5. はなはなしく生きる	6. はなはなしく生きる	7. はなはなしく生きる	8. はなはなしく生きる	9. はなはなしく生きる	10. はなはなしく生きる	11. はなはなしく生きる	12. はなはなしく生きる
道徳	1. はなはなしく生きる	2. はなはなしく生きる	3. はなはなしく生きる	4. はなはなしく生きる	5. はなはなしく生きる	6. はなはなしく生きる	7. はなはなしく生きる	8. はなはなしく生きる	9. はなはなしく生きる	10. はなはなしく生きる	11. はなはなしく生きる	12. はなはなしく生きる
学習指導要領	1. はなはなしく生きる	2. はなはなしく生きる	3. はなはなしく生きる	4. はなはなしく生きる	5. はなはなしく生きる	6. はなはなしく生きる	7. はなはなしく生きる	8. はなはなしく生きる	9. はなはなしく生きる	10. はなはなしく生きる	11. はなはなしく生きる	12. はなはなしく生きる
行事等	1. はなはなしく生きる	2. はなはなしく生きる	3. はなはなしく生きる	4. はなはなしく生きる	5. はなはなしく生きる	6. はなはなしく生きる	7. はなはなしく生きる	8. はなはなしく生きる	9. はなはなしく生きる	10. はなはなしく生きる	11. はなはなしく生きる	12. はなはなしく生きる

【補助資料6】「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のキーワード

(1) 健康な心と体

幼稚園生活の中で、**充実感**をもって自分の**やりたいことに向かって**心と体を**十分に働かせ**、**見通しをもって**行動し、**自ら**健康で安全な**生活をつくり出す**ようになる。

(2) 自立心

身近な環境に**主体的に関わり**様々な活動を**楽しむ**中で、しなければならないことを**自覚**し、**自分の力で**行うために**考えたり、工夫したり**しながら、**諦めずにやり遂げる**ことで**達成感**を味わい、**自信**をもって行動するようになる。

(3) 協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを**共有**し、**共通の目的**の実現に向けて、**考えたり、工夫したり**、**協力**したりし、**充実感**をもってやり遂げるようになる。

(4) 道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、**してよいことや悪いこと**が分かり、自分の行動を**振り返ったり**、友達の気持ちに**共感**したりし、**相手の立場に立って**行動するようになる。また、きまりを守る**必要性**が分かり、自分の**気持ちを調整**し、友達と**折り合い**を付けながら、きまりを**つくったり、守ったり**するようになる。

(5) 社会生活との関わり

家族を**大切に**しようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との**様々な関わり方に気づき**、**相手の気持ちを考えて関わり**、自分が**役に立つ喜び**を感じ、地域に**親しみをもつ**ようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に**必要な情報を取り入れ**、情報に基づき**判断したり**、情報を**伝え合ったり**、**活用したり**するなど、**情報を役立て**ながら活動するようになるとともに、公共の施設を**大切に利用**するなどして、社会との**つながりなどを意識**するようになる。

(6) 思考力の芽生え

身近な事象に**積極的に関わる**中で、物の性質や仕組みなどを**感じ取ったり、気付いたり**し、**考えたり、予想したり、工夫したり**するなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の**様々な考え**に触れる中で、自分と**異なる考えがあることに気づき**、自ら**判断したり、考え直したり**するなど、**新しい考えを生み出す喜びを味わい**ながら、自分の考えを**よりよいものにする**ようになる。

(7) 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて**感動する**体験を通して、**自然の変化などを感じ取り**、**好奇心や探究心**をもって**考え言葉などで表現**しながら、身近な事象への**関心が高まる**とともに、

自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることが気持ちをもって関わるようになる。

(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

(9) 言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

(10) 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

※(9)のように、見取りの際は、必要に応じてキーワードを取捨選択したり、組み合わせて活用する。

【補助資料7】「校内研修会・幼小接続に関するアンケート」(校内研修会直後)の結果

I アンケート調査の概要

1	調査名	校内研修会・幼小接続に関するアンケート
2	目的	保育参観・校内研修会の有効性を検証する。
3	期 日	アンケート用紙配付・説明 平成30年8月1日(水) アンケート用紙回収 平成30年8月17日(金)
4	対 象	湯本小学校教職員14名 (全教職員16名の内、校内研修会参加者) 湯本保育園・ゆもと幼稚園教職員8名(校内研修会の保育参観・演習・協議参加者)
5	方 法	質問紙法
6	内 容	【補助資料8】参照
7	その他	園教職員を対象とした調査は、参考資料とする。

II 調査結果と分析

1 小学校教職員を対象とした調査

湯本小学校教職員(16名)のうち校内研修会参加者(14名)を対象に、「校内研修会の講義・保育参観・協議・演習から学ばれたこと、研修の内容で良かったこと、今後の教育に生かしたいと思われること」について回答(自由記述)を求めた結果を、各カテゴリーに分類しまとめたものが【表1】である。保育参観・校内研修会を実施したことで得られた効果を「幼児期の教育についての理解」、「『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』についての理解」、「幼児期の教育と小学校教育との連続性についての理解」の三つに、また校内研修会の有用性についての記述を「校内研修会についての有用感」と分類してまとめ、各カテゴリーをさらに分類した。【表2】～【表9】も同様である。

【表1】講義・保育参観・協議・演習から学ばれたこと、研修の内容で良かったこと、今後の教育に生かしたいと思われること(自由記述)(N=14)

記述 保育参観・校内研修会を実施したことで得られた効果についての	◆幼児期の教育についての理解 【30】
	幼児期の教育において、資質・能力が育まれていること 11
	遊びを通して資質・能力が育まれていること 8
	資質・能力を育むために、物的・人的な環境が配慮されていること 8
	その他、幼児期の教育について理解されたこと 3
	◆「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)についての理解 【9】
	子供を見取る視点として活用できること 8
	小学校教育へ生かされる視点であること ②
	子供を多面的に見取ることのできる視点であること ①
	子供の学びを見通すことのできる視点であること ①
	その他、子供を見取る視点として理解されたこと ④
	10の姿は個別に表われるものではないこと 1
	◆幼児期の教育と小学校教育との連続性についての理解 【24】
	幼小の円滑な接続のために必要な指導 18
	幼児期の教育で育まれた資質・能力を踏まえて小学校教育を行うこと ⑨
幼児期の教育から学んだ物的・人的な環境を小学校教育でも取り入れること ⑤	
子供の発達段階を踏まえて小学校教育を行うこと ②	
小学校入学当初の重要性 ②	
幼小で身に付けたい資質・能力の共通性・連続性 3	

ての記述 有用性につ いの 校 内 研 修 会 の	幼小の円滑な接続のための、幼小連携の必要性 3
	◆校内研修会についての有用感 【18】
	保育参観の有用性 8
	保育園・幼稚園の教職員と合同での協議・演習の有用性 6
	10の姿についての講義後に保育参観・演習を設定したことの有用性 2
	幼児期の教育と10の姿についての講義の有用性 2

※【】・□・○は、同内容ののべ人数

以下、【表1】にまとめた「幼児期の教育についての理解」、「『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』についての理解」、「幼児期の教育と小学校教育との連続性についての理解」、「校内研修会の有用性についての理解」の各項目について、考察していく。

(1) 保育参観・校内研修会を実施したことで得られた効果

ア 幼児期の教育についての理解

「幼児期の教育」についての理解が進んだことについての記述内容を分析すると、【表2】のように、「幼児期の教育において、資質・能力が育まれていること」、「遊びを通して資質・能力が育まれていること」、「資質・能力を育むために、物的・人的な環境が配慮されていること」、「その他、幼児期の教育について理解されたこと」に分類することができる。調査紙への実際の記述は、【表3】の通りである。

幼児期の教育についての理解が進んだことを14名中12名が記述しており、校内研修会は「幼児期の教育についての理解」に関して高い効果があったと言える。特に、「幼児期の教育において、資質・能力が育まれていること」、「遊びを通して資質・能力が育まれていること」、「資質・能力を育むために、物的・人的な環境が配慮されていること」についての効果が高かったと言える。このことから、校内研修会を通して、保育所や幼稚園における保育の中で、子供たちはただ遊んでいるのではなく遊びを通して様々な学びがあるということや、遊びの中で学びが生まれるように物的・人的な環境が意図的に構成されていることへの理解が進んだと考えられる。

【表2】 幼児期の教育についての理解 (N=14)

◆幼児期の教育についての理解 【30】
幼児期の教育において、資質・能力が育まれていること 11
遊びを通して資質・能力が育まれていること 8
資質・能力を育むために、物的・人的な環境が配慮されていること 8
その他、幼児期の教育について理解されたこと 3

※【】・□は、同内容ののべ人数

※【表1】講義・保育参観・協議・演習から学ばれたこと、研修の内容でよかったこと、今後の教育に生かしたいと思われること（自由記述）(N=14)より一部再掲

【表3】 幼児期の教育に関する記述 (N=14)

◆幼児期の教育についての理解 【30】
幼児期の教育において、資質・能力が育まれていること 11
<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の子供の1つ1つの活動は、あらゆることが価値づくものであることを日頃から感じていたが、その事を明らかにしていただいた講義内容だった。 ・年長児は下の子のことをよく理解して生活している。異年齢で活動する幼稚園・保育園の良さを学ぶことができた。 ・遊びが経験になり、学びになっていること。それが小学校につながっていくこと。 ・保育参観では園児の遊びからいろいろな力が育成されていることを改めて体感した。 ・保育園・幼稚園でしっかりと育ててきてくださっていることを十分に理解し、小学校で伸ばしていかなければならないと痛感しました。 ・遊びを通して園児たちは、様々なことを学んでいることが分かりました。 ・幼稚園での活動についても聞くことができ、<u>自立の力を十分につけて入学してきていることに驚かさ</u>

れました。

- ・保育参観，思いっきり，たっぷり，あきるまで夢中になって遊ぶ子供たちの目の輝き，素晴らしかったです。場の設定など環境の準備が素晴らしかったですね。ああいう準備があつての，生き生きとした子供の姿だったのだと思います。
- ・「幼児教育でつけた力を小学校で伸ばせるように」というフレーズが心に残っている。遊びを通して発達に必要な体験を積み重ねることが，湯本保育園見学での子供の姿を見て納得させられた。しかも，没頭しているとき，学びが深まるということで，先生方の子供の思いやつぶやきに寄り添った環境設定，「考えてみて」（モールを中から持って来て，短くカットしながら）という子供主体の思考・活動・空きペットボトルの目盛り，飽きそうな子供たちへの次の仕掛け……子供たちをいかに見，聞き，認め，促す……参考になりました。
- ・勿論，発達段階の違いがあるので，相手意識や仲間意識をもたせることが，私達には必要なのですが，子供たちの自信のなさや苦手意識，主体性の喚起には，やはり寄り添う柔らかな姿勢を大切にしていきたいです。
- ・年下の子やグレーゾーンの子に対する，周りの子の対応の仕方について話が出ました。いきなり怒ったり注意したりするのではなく，様子を見守ったり，ソフトに声をかけたりしていたそうです。普段から発達の違う子と接しながら関わり方を学んでいくことの大切さを感じました。1年生に対する小学校教員の関わり方について幼保で身に付けてきた力を踏まえ，赤ちゃん扱いせず指導していかなければならないことが話し合われました。

遊びを通して資質・能力が育まれていること ⑧

- ・遊びを通して学んでいく幼児期の特性を小学校教育につなげていかなければならないと感じた。
- ・遊びが経験になり，学びになっていること。それが小学校につながっていくこと。
- ・保育参観では園児の遊びからいろいろな力が育成されていることを改めて体感した。
- ・遊びを通して園児たちは，様々なことを学んでいることが分かりました。
- ・保育参観，思いっきり，たっぷり，あきるまで夢中になって遊ぶ子供たちの目の輝き，素晴らしかったです。場の設定など環境の準備が素晴らしかったですね。ああいう準備があつての，生き生きとした子供の姿だったのだと思います。
- ・遊びを通して発達に必要な体験を積み重ねるということが，湯本保育園見学での子供の姿を見て納得させられた。
- ・講義から，子供が遊ぶということの大切さを改めて感じました。子供に与えすぎず，安心と安全を確保した上で自由に遊ぶということが必要と気付かされました。自分の子育てにも生かしていきたいと思います。
- ・幼児教育では遊びを通した学びを行っていることは知っていましたが，くわしく学んだことがないのが現状でした。

資質・能力を育むために，物的・人的な環境が配慮されていること ⑧

- ・協議で幼稚園・保育園の先生方が大切にされていることが分かり，とても参考になった。
- ・保育園の先生方は，園児の思いや気付きを大切にしながら，日々の保育をされていることに感銘を受けました。思いを受け止め，考えさせ，適切に助言したり励ましたりしていく姿勢はぜひ真似していきたいと強く思いました。また，物，場所，時間を与え，子供にたっぷりと活動を保障してあげることが幼児期～低学年期の子供の発達にとってとても大事なことであることを学びました。
- ・保育参観では，多様な場の設定がされていることにまず驚きました。園児の遊びの展開の素晴らしさにも驚きました。
- ・保育参観，思いっきり，たっぷり，あきるまで夢中になって遊ぶ子供たちの目の輝き，素晴らしかったです。場の設定など環境の準備が素晴らしかったですね。ああいう準備があつての，生き生きとした子供の姿だったのだと思います。小学校の低学年の生活科などの中で，ああいう体験をさせたいと思いました。
- ・参観時には，子供たちの視点に寄り添って声をかけたり遊び道具を出したりする先生方の柔らかな姿が，見習うことが沢山あると感じました。
- ・没頭しているとき，学びが深まるということで，先生方の子供の思いやつぶやきに寄り添った環境設定，「考えてみて」（モールを中から持って来て，短くカットしながら）という子供主体の思考・活動・空きペットボトルの目盛り，飽きそうな子供たちへの次の仕掛け……子供たちをいかに見，聞き，認め，促す……参考になりました。小学校では，幼稚園・保育所での活動を丸ごとそのまま踏襲することは難しいが，限られた時間(時数)の中で少しでも取り入れていくことが必要だと感じる。
- ・年下の子やグレーゾーンの子に対する，周りの子の対応の仕方について話が出ました。いきなり怒ったり注意したりするのではなく，様子を見守ったり，ソフトに声をかけたりしていたそうです。普段から発達の違う子と接しながら関わり方を学んでいくことの大切さを感じました。
- ・保育園では，環境をよく整えてのびのび育てているなあと感じました。先生方は大変だな。

その他，幼児期の教育について理解されたこと ③

- ・演習では，幼児期における教育の基本について理解を深めることができた。
- ・幼保の指導について具体的に知れたこと。
- ・幼稚園・保育園での教育の重要性が分かった。

※【 】・□は，同内容ののべ人数

※下線は森田

イ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」 についての理解

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」 についての理解が進んだことについての記述内容を分析すると、【表4】のように、「子供を見取る視点として活用できること」、「10の姿は個別に表われるものではないこと」に分類することができる。調査紙への実際の記述は、【表5】の通りである。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」 についての理解が進んだことを半数の回答者（14名中7名）が記述しており、うち6名が「子供を見取る視点として活用できること」を記述している。しかし、前項の「幼児期の教育についての理解」と比較すると、理解が十分に進まなかったと言える。この要因としては、今回の幼稚園教育要領等の改訂においても幼児期の教育の基本は変わるものではないが、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は新しく示され、特に小学校教職員にとっては馴染みの浅いものであったことが考えられる。だからこそ、校内研修会を通して「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について学び、実際に子供を見取る視点として活用し、見取った子供の姿を教職員間で共有し検討したことは、新学習指導要領が告示されてからの初回となる幼小接続に関わる校内研修会の内容として、必要であったと考える。また、少数ではあるが、子供を見取る視点としての10の姿の特性について理解を深めた記述もあり、教職員がこれから一層、10の姿への理解を深めていくことが期待される。

【表4】 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿についての理解（N=14）

◆「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」についての理解 【9】
子供を見取る視点として活用できること 8
小学校教育へ生かされる視点であること ②
子供を多面的に見取ることのできる視点であること ①
子供の学びを見通すことのできる視点であること ①
その他、子供を見取る視点として理解されたこと ④
10の姿は個別に表われるものではないこと 1

※【 】・□・○は、同内容ののべ人数

※【表1】講義・保育参観・協議・演習から学ばれたこと、研修の内容でよかったこと、今後の教育に生かしたいと思われること（自由記述）（N=14）より一部再掲

【表5】 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に関する記述（N=14）

◆「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」についての理解 【9】
子供を見取る視点として活用できること 8
小学校教育へ生かされる視点であること ②
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校で行う教育活動のねらいを考えると前提となる整理された項目としてよく理解し、それらを見取る力は職員がもつべきだと思う。 ・学級経営にも関わる（つながる）視点だと思います。自分が小学校で無意識でやっていたことを意識化している段階にありましたので、一番印象に残りました。
子供を多面的に見取ることのできる視点であること ①
<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の終わりまでに育ってほしい力、10の視点について知ったことがとても有意義でした。分類してとらえることで、その先にある育てたい力への手立てや支援の方向付けや、目の前にある一見不適切な行動への対応の是非、広く子供を見つめる視野をもつことができるのではないかと感じました。
子供の学びを見通すことのできる視点であること ①
<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の終わりまでに育ってほしい力、10の視点について知ったことがとても有意義でした。分類してとらえることで、その先にある育てたい力への手立てや支援の方向付けや、目の前にある一見不適切な行動への対応の是非、広く子供を見つめる視野をもつことができるのではないかと感じました。

<p>その他、子供を見取る視点として理解されたこと ④</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育参観をする前に「<u>幼児期の終わりまでに育ってほしい姿</u>」についての説明があり、<u>授業を見る視点ができたことは大変よかった。</u> ・初めの講義の中で、「遊びを通しての学びについて」のお話を聞いた後に、保育園の外遊びの様子を見たので、<u>見る視点がはっきりとしました。</u> ・「<u>幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 10項目</u>」について初めて知りました。<u>子供の姿の見取り方の観点として、これから参考にしていきたいです。</u> ・「<u>育ってほしい10の姿</u>」から子供を見ていくことの大切さを感じた。
<p>10の姿は個別に表われるものではないこと ①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議を通して、10の姿について照らし合わせながら考え<u>子供の姿が1つではなく相乗的につながっていると感じました。</u>

※【】・□・○は、同内容ののべ人数

※下線は森田

ウ 「幼児期の教育と小学校教育との連続性」についての理解

「幼児期の教育と小学校教育との連続性」についての理解が進んだことについての記述内容を分析すると、【表6】のように、「幼小の円滑な接続のために必要な指導」，「幼小で身に付けたい資質・能力の共通性・連続性」，「幼小の円滑な接続のための、幼小連携の必要性」に分類することができる。調査紙への実際の記述は、【表7】の通りである。

「幼児期の教育と小学校教育との連続性」についての理解が進んだことをほとんどの回答者（14名中13名）が記述しており、その中でも、「幼小の円滑な接続のために必要な指導」として、「幼児期の教育で育まれた資質・能力を踏まえて小学校教育を行うこと」（9名）に関する記述が最多であった。

この内容は幼小の円滑な接続のために欠かせない大切なことであり、校内研修会でこのことの理解が進んだことは大きな成果と考える。

【表6】 幼児期の教育と小学校教育との連続性についての理解（N=14）

◆幼児期の教育と小学校教育との連続性についての理解 【24】
幼小の円滑な接続のために必要な指導 ⑧
<ul style="list-style-type: none"> 幼児期の教育で育まれた資質・能力を踏まえて小学校教育を行うこと ⑨ 幼児期の教育から学んだ物的・人的な環境を小学校教育でも取り入れること ⑤ 子供の発達段階を踏まえて小学校教育を行うこと ② 小学校入学当初の重要性 ②
幼小で身に付けたい資質・能力の共通性・連続性 ③
幼小の円滑な接続のための、幼小連携の必要性 ③

※【】・□・○は、同内容ののべ人数

※「【表1】講義・保育参観・協議・演習から学ばれたこと、研修の内容でよかったこと、今後の教育に生かしたいと思われること（自由記述）（N=14）」より一部再掲

【表7】 幼児期の教育と小学校教育との連続性に関する記述（N=14）

◆幼児期の教育と小学校教育との連続性についての理解 【24】
幼小の円滑な接続のために必要な指導 ⑧
<ul style="list-style-type: none"> 幼児期の教育で育まれた資質・能力を踏まえて小学校教育を行うこと ⑨ ・10の育てたい姿の理解も、この機会がなければ小学校の職員はなかなか触れることもなかったかもしれない。<u>小学校で行う教育活動のねらいを考えると前提となる整理された項目としてよく理解し、それらを見取る力は職員がもつべきだと思う。</u> ・<u>年長児の学んできたことを小学校に入学してゼロスタートにするのではなく、そこを小学校で引き継いでさらに伸ばしていくことが大事であることを感じました。</u> ・<u>保育園・幼稚園でしっかりと育ててくださっていることを十分に理解し、小学校で伸ばしていかねばならないと痛感しました。</u> ・<u>遊びが経験になり、学びになっていること。それが小学校につながっていくこと。</u> ・<u>園で育まれた力を小学校では伸ばしていく必要を感じた。</u>

	<ul style="list-style-type: none"> ・保育参観では、多様な場の設定がされていることにまず驚きました。あのような経験をしてきた子供たちは、小学校の生活でも豊かな発想力で学ぶことができるだろうと感じるとともに、小学校での与え方(場や道具)も工夫していかなければと思いました。(中略)幼稚園での活動についても聞くことができ、自立の力を十分につけて入学してきていることに驚かされました。思っていたより、<u>1年生は入学時からできるのでは…</u>と感じ連携することは大事だと改めて感じました。 ・これからも<u>就学前で身に付けた力を生かせるような小学校教育になるよう</u>考えていきたいと思えます。 ・1年生に対する小学校教員の関わり方について幼保で身に付けてきた力を踏まえ、赤ちゃん扱いせずに指導していかなければならないことが話し合われました。 ・「<u>幼児教育でつけた力を小学校で伸ばせるように</u>」というフレーズが心に残っている。
	<p>幼児期の教育から学んだ物的・人的な環境を小学校教育でも取り入れること ⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園の先生方は、園児の思いや気付きを大切にしながら、日々の保育をされていることに感銘を受けました。思いを受け止め、考えさせ、適切に助言したり励ましたりしていく姿勢はぜひ真似していきたいと強く思いました。 ・場の設定など環境の準備が素晴らしかったですね。ああいう準備があつての、生き生きとした子供の姿だったのだと思います。<u>小学校の低学年の生活科などの中で、ああいう体験をさせたい</u>と思いました。 ・参観時には、子供たちの視点に寄り添って声をかけたり遊び道具を出したりする先生方の柔らかな姿が、<u>見習うことが沢山ある</u>と感じました。勿論、発達段階の違いがあるので、相手意識や仲間意識をもたせることが、私達には必要なのですが、子供たちの自信のなさや苦手意識、主体性の喚起には、やはり寄り添う柔らかな姿勢を大切にしていきたいです。 ・保育参観では、多様な場の設定がされていることにまず驚きました。あのような経験をしてきた子供たちは、小学校の生活でも豊かな発想力で学ぶことができるだろうと感じるとともに、<u>小学校での与え方(場や道具)も工夫していかなければ</u>と思いました。 ・小学校では、幼稚園・保育所での活動を丸ごとそのまま踏襲することは難しいが、<u>限られた時間(時数)の中で少しでも取り入れていくことが必要</u>だと感じる。
	<p>子供の発達段階を踏まえて小学校教育を行うこと ②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びを通して学んでいく<u>幼児期の特性を小学校教育につなげていかなければならない</u>と感じた。 ・物、場所、時間を与え、子供にたっぷり活動を保障してあげることが幼児期から低学年期の子供の発達にとってとても大事なことであることを学びました。
	<p>小学校入学当初の重要性 ②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校1年生のスタートから1学期の重要さが分かった。 ・花巻市で作成したスタートカリキュラムを全職員が分かっていないので、手元において活用できるとよいと思いました。
	<p>幼小で身に付けたい資質・能力の共通性・連続性 ③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>幼児にも児童にももっともつけない力は主体的に働きかける力、受け止める力、し続ける力</u>だと思う。共通性、系統性を感じることができたのは、今回の講義、参観、協議等の成果だった。 ・幼・保育園の先生方と協議する中で、<u>小学校での課題は幼稚園・保育園でも課題である</u>と知ることができ、たいへん勉強になりました。その一つとして、「伝える」があり、幼保小で、人に対して言葉で伝える方法を教えていきたいという話でした。現代の子供の課題が見れたような気がします。 ・勿論、発達段階の違いがあるので、相手意識や仲間意識をもたせることが、私達には必要なのですが、<u>子供たちの自信のなさや苦手意識、主体性の喚起には、やはり寄り添う柔らかな姿勢を大切に</u>していきたいです。
	<p>幼小の円滑な接続のための、幼小連携の必要性 ③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生に対する小学校教員の関わり方について幼保で身に付けてきた力を踏まえ、赤ちゃん扱いせずに指導していかなければならないことが話し合われました。そのためには、<u>就学前に、幼保時代の子供の姿を目にしておくことも大切</u>だと思いました。 ・実際に保育参観をして、<u>就学前の子供の様子を知れたので、1年生への対応の仕方の参考</u>になりました。 ・<u>幼稚園での活動についても聞くことができ、自立の力を十分につけて入学してきていることに驚か</u>されました。思っていたより、1年生は入学時からできるのでは…と感じ連携することは大事だと改めて感じました。

※【 】・□・○は、同内容ののべ人数。

※下線、中略は森田

(2) 校内研修会の有用性

ア 校内研修会についての有用感

校内研修会の有用感に関する記述内容を分析すると、【表8】のように、「保育参観の有用性」、「保育園・幼稚園の教職員と合同での協議・演習の有用性」、「10の姿についての講義後に保育参

観・演習を設定したことの有用性」,「幼児期の教育と10の姿についての講義の有用性」に分類することができる。調査紙への実際の記述は、【表9】の通りである。

特に保育参観と、園の教職員と合同で実施した演習・協議についての記述が多く見られた。これまで、1学年担任等の限られた立場でなければ、保育参観をしたり園の教職員と交流したりする場はほとんどなかった。本実践では、小学校の全教職員が保育を参観し、全教職員が園の教職員と協議をしたことが、小学校教職員の幼児教育の理解や幼小接続への意識を大きく進めたと考える。

【表8】校内研修会についての有用感 (N=14)

◆校内研修会についての有用感 【18】
保育参観の有用性 [8]
保育園・幼稚園の教職員と合同での協議・演習の有用性 [6]
10の姿についての講義後に保育参観・演習を設定したことの有用性 [2]
幼児期の教育と10の姿についての講義の有用性 [2]

※【 】・□は、同内容ののべ人数

※「【表1】講義・保育参観・協議・演習から学ばれたこと、研修の内容でよかったこと、今後の教育に生かしたいと思われること(自由記述)(N=14)」より一部再掲

【表9】校内研修会についての有用感に関する記述 (N=14)

◆校内研修会についての有用感 【18】
保育参観の有用性 [8] <ul style="list-style-type: none"> ・ 共通性, 系統性を感じることができたのは、今回の講義, 参観, 協議等の成果だった。 ・ 保育参観では園児の遊びからいろいろな力が育成されていることを改めて体感した。 ・ 保育参観では、多様な場の設定がされていることにまず驚きました。あのような経験をしてきた子供たちは、小学校の生活でも豊かな発想力で学ぶことができるだろうと感じるとともに、小学校での与え方(場や道具)も工夫していかなければと思いました。園児の遊びの展開の素晴らしさにも驚きました。 ・ 参観時には、子供たちの視点に寄り添って声をかけたり遊び道具を出したりする先生方の柔らかな姿が見習うことが沢山あると感じました。勿論、発達段階の違いがあるので、相手意識や仲間意識をもたせることが、私達には必要なのですが、子供たちの自信のなさや苦手意識、主体性の喚起には、やはり寄り添う柔らかな姿勢を大切にしていきたいです。 ・ 実際に保育参観をして、就学前の子供の様子を知れたので、1年生への対応の仕方の参考になりました。 ・ 保育参観, 思いっきり, たっぷり, あきるまで夢中になって遊ぶ子供たちの目の輝き, 素晴らしかったです。場の設定など環境の準備が素晴らしかったですね。ああいう準備があつての、生き生きとした子供の姿だったのだと思います。小学校の低学年の生活科などの中で、ああいう体験をさせたいと思いました。 ・ 遊びを通して発達に必要な体験を積み重ねることが、湯本保育園見学での子供の姿を見て納得させられた。しかも、没頭しているとき、遊びが深まるということで、先生方の子供の思いやつぶやきに寄り添った環境設定、「考えてみて」(モールを中から持って来て、短くカットしながら)という子供主体の思考・活動・空きペットボトルの目盛り, 飽きそうな子供たちへの次の仕掛け……子供たちをいかに見, 聞き, 認め, 促す……参考になりました。 ・ 初めの講義の中で、「遊びを通しての学びについて」のお話を聞いた後に保育園の外遊びの様子を見たので、見る視点がはっきりとしました。遊びを通して園児たちは、様々なことを学んでいることが分かりました。
保育園・幼稚園の教職員と合同での協議・演習の有用性 [6] <ul style="list-style-type: none"> ・ 共通性, 系統性を感じることができたのは、今回の講義, 参観, 協議等の成果だった。 ・ 協議で幼稚園・保育園の先生方が大切にされていることが分かり、とても参考になった。演習では、幼児期における教育の基本について理解を深めることができた。 ・ 協議の中では、年長児の学んできたことを小学校に入学してゼロスタートにするのではなく、そこを小学校で引き継いでさらに伸ばしていくことが大事であることを感じました。 ・ 協議を通して、10の姿について照らし合わせながら考え子供の姿が1つではなく相乗的につながっていると感じました。幼稚園での活動についても聞くことができ、自立の力を十分につけて入学してきていることに驚かされました。思っていたより、1年生は入学時からできるのでは…と感じ連携することは大事だと改めて感じました。 ・ 年下の子やグレーゾーンの子に対する、周りの子の対応の仕方について話が出ました。いきなり怒ったり注意したりするのではなく、様子を見守ったり、ソフトに声をかけたりしていたそうです。普段から発達の違う子と接しながら関わり方を学んでいくことの大切さを感じました。1年生に対する小学校教員の関わり方について幼保で身に付けてきた力を踏まえ、赤ちゃん扱いせず指導していかなければなら

<p>ないことが話し合われました。そのためには、就学前に、幼保時代の子供の姿を目にしておくことも大切だと思いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼・保育園の先生方と協議する中で、小学校での課題は幼稚園・保育園でも課題であると知ることができ、たいへん勉強になりました。その一つとして、「伝える」があり、幼保小で、人に対して言葉で伝える方法を教えていきたいという話でした。現代の子供の課題が見れたような気がします。
<p>10の姿についての講義後に保育参観・演習を設定したことの有用性 [2]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育参観をする前に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」についての説明があり、授業を見る視点ができたことは大変よかった。 ・初めの講義の中で、「遊びを通しての学びについて」のお話を聞いた後に、保育園の外遊びの様子を見たので、見る視点がはっきりとしました。
<p>幼児期の教育と10の姿についての講義の有用性 [2]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の子供の1つ1つの活動は、あらゆることが価値づくものであることを日頃から感じていたが、その事を明らかにしていただいた講義内容だった。10の育てたい姿の理解も、この機会がなければ小学校の職員はなかなか触れることもなかったかもしれない。(中略) 共通性、系統性を感じることができたのは、今回の講義、参観、協議等の成果だった。 ・講義から、子供が遊ぶということが大切さを改めて感じました。子供に与えず、安心と安全を確保した上で自由に遊ぶということが必要と気付かされました。自分の子育てにも生かしていきたいと思えます。

※【 】・□は、同内容ののべ人数
※中略は森田

(3) 1学年担任の経験回数から

【表10】は、1学年担任の経験回数が特に少ない教職員と多い教職員による記述を抜粋したものである。1学年の担任経験の多少に関わらず、本研修会ではそれぞれの教職員にとっての学びがあり、有意義であったと考える。

【表10】1学年担任を経験した回数による記述

1学年担任の経験回数が少ない教職員の記述
<p>1学年担任経験0回 30代 教諭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園の先生方は、園児の思いや気付きを大切にしながら、日々の保育をされていることに感銘を受けました。思いを受け止め、考えさせ、適切に助言したり励ましたりしていく姿勢はぜひ真似していきたいと強く思いました。また、物、場所、時間を与え、子供にたっぷり活動を保障してあげることが幼児期～低学年の子供の発達にとってとても大事なことを学びました。保育園・幼稚園でしっかりと育ててくださっていることを十分に理解し、小学校で伸ばしていかなければならないと痛感しました。
1学年担任の経験回数が多い教職員の記述
<p>1学年担任経験10回 60代 教諭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・保育園での教育の重要性が分かった。また、園で育まれた力を小学校では伸ばしていく必要を感じた。保育参観では園児の遊びからいろいろな力が育成されていることを改めて体感した。とても有意義な研修だった。
<p>1学年担任経験10回 50代 教諭</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めの講義の中で、「遊びを通しての学びについて」のお話を聞いた後に、保育園の外遊びの様子を見たので、見る視点がはっきりとしました。遊びを通して園児たちは、様々なことを学んでいることが分かりました。 ・協議の中では、年長児の学んできたことを小学校に入学してゼロスタートにするのではなく、そこを小学校で引き継いでさらに伸ばしていくことが大事であることを感じました。

2 保育園・幼稚園教職員を対象とした調査

湯本保育園・ゆもと幼稚園教職員8名(校内研修会の保育参観・演習・協議の参加者)を対象に、「校内研修会に参加して感じたこと」について回答(自由記述)を求めた結果を、参考資料として【表11】に記載する。

年長児担任等の限られた立場になれば小学校教職員と交流する場はほとんどなかったことを背景に、「今までの保幼小の連携を超えた感じがした」等、本研修会を幼保小の教師間での交流・学びの

場として評価する声や、演習・協議の中で「幼児期の教育と小学校生活へのつながり」について話し合われたことを評価する声が多い。幼小接続に寄せる園教職員の熱意が感じられる記述が多い。

【表 11】校内研修会で感じたことの記述（N=8）

校内研修会に参加して感じたこと
<ul style="list-style-type: none"> ・日々、保育を進めていく中で、改めて 10 の姿に関連付けて話し合いの場をもつことで、私自身の気づきが多くあり、小学校での生活にどのようにこの姿がつながっていくのか、など理解を深めることができた。小学校・幼稚園の職員の方からの「とらえられた子供の姿」を書き出していただく中で、私自身の中で初めて見えてくる姿があったり、これからの保育、遊びの展開をどのように援助していけばよいのかを、より深く考えられることができて、とてもいい機会となった。 ・保育園での遊びの様子からいろいろな視点で子供たちの姿をとらえて感想をいただき、今後の活動の参考になった。 ・近隣にありながら、なかなか交流がもてずにいた保育園さんの保育の実際、子供たちの遊びの様子、保育士さんの関わり方など実際に見学させて頂き、とても学びとなりました。楽しい遊び、環境があつてこそ心が動かされ夢中になって遊ぶ子供たちは、その中でたくさんのことを学んでいました。グループ協議では、小学校の先生方がリードをとって下さり、話し合いがスムーズでした。先生方が子供たちの姿に寄り添って、同じ目線で捉えて下さり、私達もとても嬉しく思いました。この保幼小連携の研究にあたり、こうして、まずは教師間の交流が大切で、話し合いをすることが第一歩なのだと思えて感じました。そして、湯本小の先生方の熱意にも感動いたしました。 ・日々保育をしていく中で子供たちが主体的に生活していくように関わっていることが、実際、小学校生活に深くつながっているということを先生方のお話を聞いて実感しました。小学校教育は 0 からのスタートではない、幼児期に経験した事が土台となり、小学校で更に枝葉がつき成長していく、その為には、幼児期に関わる私たちとつながっていく学校の先生方が目指す子供の姿、思いを共通理解していきながら進めていくことが大事だと思いました。湯本小、保育園、幼稚園がこんなにも近くにある環境はとても恵まれていると思います。昨年度、年長組を担当したのですが、保幼小交流を進めていくと子供たちの就学に向けての期待感がどんどん増していく姿を感じました。なかなか時間をとることは難しいかもしれませんが、情報交換や公開はどんどん企画して欲しいし、参加したいと思いました。特にも先生方の学ぶ姿に感動しました。ありがとうございました。 ・小学校の先生方と話し合うということが初めてだったので、とても勉強になったし、率直に楽しかったです。学校の先生方は 1 年生をつい赤ちゃん扱いをしてしまうという話を聞き、驚きもしたが、なるほど…とも思った。保幼小の連携でいつも年長の先生が学校と話し合うことが多いが、今回のように年に 1 回程度でいいので、他の学年の姿を伝える機会が今後あってもいいのかなとも感じた。年齢が低くても、こういうことを意識して頑張っていることや、こんなことだってできるというようなことを学校の先生方に伝え、共通理解を図れば、もっともっと良くなるのではないかと思った。保育参観の子供の見方も、学校の先生と保幼の先生との見方や捉え方が、また違ってこういう見方があるんだなと勉強になりました。ありがとうございました。 ・保育園での遊びを知るととても良い機会だった。幼児期に必要な学びを遊びを通して体験している子供たちは、小学校での教科や生活習慣に繋がっていることを伝えることができたのはとても良かった。小学校の先生方も幼稚園・保育園での遊びをたくさん勉強して下さり、小学校教育とどう繋がられるか直接話ができて私達も勉強になった。保育園、幼稚園、小学校、全てにおいて体験、学習していることは同じであると改めて感じる事ができた。距離は近いけれど、それぞれの先生方と意見交換できる場はなかったので続けていければ良いなと思った。 ・初めて、小学校の先生方との、こういった話し合いをしたことで、知らなかった部分（こういう姿は〇〇の授業につながってくね）を知ることができてとても勉強になった。さらに、子供たちが就学するとき、もっと一人一人の様子や、こういうことを大切にしてきたなど、引き継ぎのときに伝えていきたいと思った。 ・湯本保育園を会場にして、公開保育ができたことに感謝します。保育園の子供たちと先生方がたくさんの先生方に見られている…という意識がなく普段通りで良かった。また、集中していた。園側としては、とても勉強になった。（扉を開けることの大切さを感じた。）それぞれの幼小の先生方の眼から感じる温かい言葉を頂き、自信となり、自分たちの関わりが子供たちの学びの土台となることを意識して、保育していきたいと思った。今までの保幼小の連携を越えた感じがした。保幼小の「のりしろ」がとても大切であることは十分わかっているし、それについての書もたくさん手にすることができるが、今回のように、たくさんの小学校、幼稚園の先生方が参加し、それぞれの現場の思いをもち、「公開」を通してコミュニケーションが取れたことが大きな力となった。（5 歳児になる根が保育園の 0 歳、1 歳、2 歳にあるので、保育園にしかない未満児を見ていただけ良かった）一人の子供が、その子の良さを開花し、豊かな人間、豊かな教育へと進めていけるよう、10 の姿を軸にし、学習に値する遊びに十分取り組み、主体性ある保育園づくりをさらにしていきたいと思った。）

【補助資料8】質問紙「校内研修会・幼小接続に関するアンケート」

校内研修会・幼小接続に関するアンケート

◆あなた自身のことについてお答えください。

1 お名前			
2 職名 ・ 担任学年等	職名		担任学年等
3 1 学年担任の経験回数	回		
4 保幼小連携の経験 (有・無に○をつけ、有の場合は 年数をお書きください。)	有 (年間くらい)	・ 無

◆本日の校内研修会についてお答えください。

5 講義・保育参観・協議・演習から学ばれたこと、研修の内容でよかったこと、今後の教育に生かしたいと思われることをお書きください。
--

湯本小学校校内研修会に関するアンケート（園の先生方へ）

◆あなた自身のことについてお答えください。

1	お名前			
2	職名 ・ 担任学年等	職名		担任学年等
3	5歳児担任の経験回数	回		

◆本日の校内研修会についてお答えください。

<p>本日の校内研修会は、湯本小学校の教職員について、次のことをねらいとして実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児期の教育についての理解と、幼児期に育まれる学びが小学校教育につながることへの理解を深める。 ・ 幼児期の教育と小学校教育において子供の発達と学びを見取る共通の視点となる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について知り、その視点で子供を捉え直すことができる <p>・ 校内研修会に参加されて感じたことをお書きください。</p>
--

アンケートは以上です。

このアンケートの回答結果は、研究発表等で公表する場合があります。

お忙しい中、小学校校内研修へのご参加と、アンケートへのご協力ありがとうございました。

【補助資料9】「校内研修会に関するアンケート（事後）」（校内研修会3か月後）の結果

I アンケート調査の概要

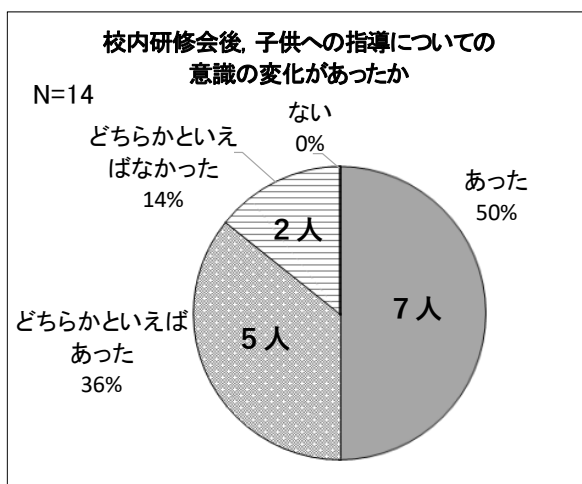
1	調査名	校内研修会に関するアンケート（事後）
2	目的	保育参観・校内研修会の有効性と、保育参観・校内研修会の設定の妥当性を検証する。
3	期日	アンケート用紙配付・説明 平成30年11月9日（金） アンケート用紙回収 平成30年11月14日（水）
4	対象	14名 湯本小学校教職員（16名）の内、校内研修会参加者 （校長，副校長，教務主任，各学年担任，特別支援学級担任，養護教諭）
5	方法	質問紙法
6	内容	【補助資料9】参照

II 調査結果と分析

1 校内研修会に参加した小学校教職員の変化について

(1) 意識の変化

校内研修会後の子供への指導に関わり意識の変化の有無について回答を求めた結果は、【図1】の通りである。また、意識の変化が「あった」、「どちらかといえばあった」の回答者に、その具体的な内容について回答（自由記述）を求めた結果を各カテゴリーに分類したものが【表1】、調査紙への実際の記述は【表2】の通りである。



【図1】 小学校教職員の意識の変化

【表1】 指導に関わる意識の変化の内容（自由記述）(n=12)

◆子供理解に基づく指導の意識 【7】
幼児期の教育で育まれた資質・能力を踏まえた指導の意識 【4】
その他、子供理解に基づく指導の意識 【3】
◆「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点として子供を見取る意識 【2】
◆子供たちを育てることへの責任の認識 【1】
◆職員間での1年生に対する共通理解への意識 【1】

※【 】・□は、同内容の人数

【表 2】指導に関わる意識の変化の内容に関する記述 (n=12)

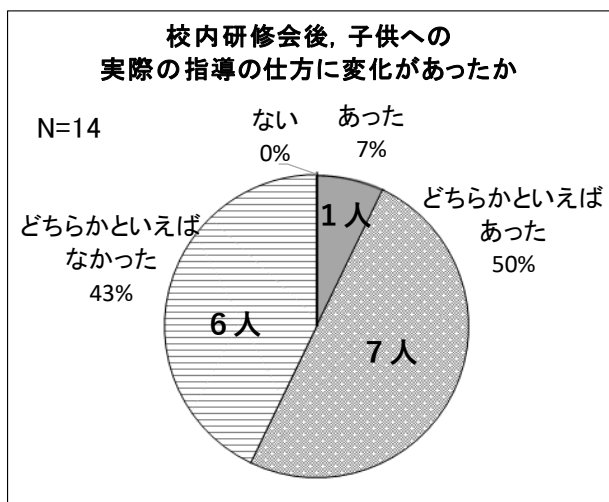
◆子供理解に基づく指導の意識 【7】
幼児期の教育で育まれた資質・能力を踏まえた指導の意識 4 <ul style="list-style-type: none"> ・入学前に伸ばしてもらってきた力を小学校で生かして、つけるべき力をつけていくために、指導目標や指導内容を見直すように。 ・「まだ1年生だから…」から、「もう1年生だから…」というように、前向きに考えるようになった。 ・1年生でも保育園で最高年齢として育ててきたことを知り、1年生でも「自分でできる」ことを念頭に置いて指導しようと思いました。 ・保育園や幼稚園で学んできたことが分かったので、そこをもとにして積み上げた指導をしたいと思いました。
その他、子供理解に基づく指導の意識 3 <ul style="list-style-type: none"> ・低学年の指導に入るときに、つながりを考えるようになった。まだまだ発達の差があることも意識した。 ・発達段階について意識するようになった。 ・子供の意思を尊重することの大切さについて再認識した。
◆「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点として子供を見取る意識 【2】
<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期までに育ってほしい10の姿を研修会で学んだことで、今やっている活動はどれにあたるのか意識しながら参観するようになった。 ・見取りの観点を意識するようになった。
◆子供たちを育てることへの責任の認識 【1】
<ul style="list-style-type: none"> ・幼保の子供たちの学びを見せていただくことで、学びの連続性を感じて、今の子への責任をもたなければと思うようになりました。授業とか。
◆職員間での1年生に対する共通理解への意識 【1】
<ul style="list-style-type: none"> ・担任している学年（6年）への指導についてはあまり変わっていませんが、低学年、特に1年生の様子・姿を見守ろうという意識が高くなったと思う。

※【 】・□は、同内容の人数

意識の変化が「あった」、「どちらかといえばあった」の回答が合わせて86%（14名中、12名）であり、ほとんどの教職員は、校内研修会後に自分の意識の変化を感じている。その半数以上は「子供理解に基づく指導の意識」に関わるもので、1年生へ対する「幼児期に育まれた資質・能力を踏まえた指導の意識」の記述が最多であった。

(2) 実際の指導の変化

校内研修後の子供への実際の指導の変化の有無について回答を求めた結果は、【図 2】の通りである。また、実際の指導の変化が「あった」、「どちらかといえばあった」の回答者に、その具体的な内容について回答（自由記述）を求めた結果を各カテゴリーに分類したものが【表 3】、調査紙への実際の記述は【表 4】の通りである。



【図 2】小学校教職員の実際の指導の変化

【表 3】 実際の指導の変化の内容（自由記述）（n=8）

◆子供理解に基づく指導 【8】
幼児期の教育で育まれた資質・能力を踏まえた指導 7
その他, 子供理解に基づく指導 1
◆環境構成の工夫 【1】
◆各学年で育みたい資質・能力の明確化 【1】

※【 】・□・○は, 同内容ののべ人数

【表 4】 実際の指導の変化の内容に関する記述（n=8）

◆子供理解に基づく指導 【8】
幼児期の教育で育まれた資質・能力を踏まえた指導 7
<ul style="list-style-type: none"> ・入学までにつけてきた力を自覚させて, 高い目標に向かわせるようになった。 ・1年生の指導において, 保育園・幼稚園での学びを踏まえることを心掛けるようになった。 ・声かけや指示の仕方を2・3年生へ向けてするのと同じようになりました。 ・幼保で経験してくるであろう活動を取り入れるようになった。 ・縦割り清掃やなかよし集会（児童集会）での指導場面において, 1年生の子の気持ち・思いを聞き取るようにしている。 ・自己決定の場を与えるように, 声かけを変えた。 ・自由の中の規律。
その他, 子供理解に基づく指導 1
<ul style="list-style-type: none"> ・子供目線に立つことの大切さ。
◆環境構成の工夫 【1】
<ul style="list-style-type: none"> ・教材・教具の提示の工夫等。
◆各学年で育みたい資質・能力の明確化 【1】
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の定着への意識が強くなった。確実にして上の学年へ上げるようにというラインの見極めをする機会が授業でも増えた。

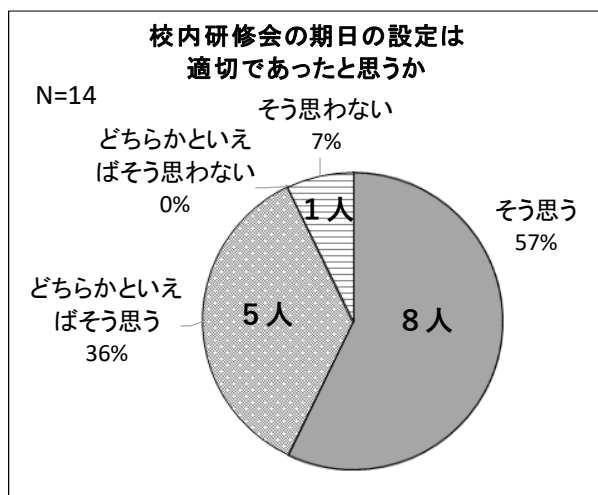
※【 】・□・○は, 同内容ののべ人数

実際の指導の変化が「あった」, 「どちらかといえばあった」の回答は合わせて57%（14名中, 8名）であり, 前項で述べた意識の変化（86%）に比べ, 低い値である。しかし, 校内研修会後に意識の変化が「あった」, 「どちらかといえばあった」教職員12名のうち, 実際の指導にも変化が「あった」, 「どちらかといえばあった」と回答した割合は67%（12名中, 8名）であり, 意識の変化があった教職員のうち7割近くが, 実際の指導にも変化を感じていることが分かる。

2 校内研修会の実施について

(1) 期日

校内研修会の期日の妥当性について回答を求めた結果は, 【図 3】の通りである。また, そのことに関する意見（任意）を求めた回答の結果は, 【表 5】の通りである。



【図 3】 校内研修会の期日

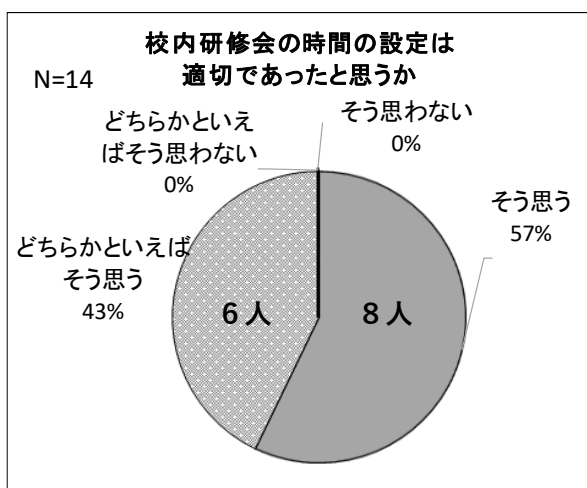
【表 5】 校内研修会の期日の妥当性に関する意見 (N=14)

「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の回答者の意見
<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みだと全職員が研修できるので良い。 ・夏休み中で良かった。 ・夏休み中で参加しやすくて良いと思います。 ・もう少し涼しい時期だとベストかも。
「どちらかといえばそう思わない」の回答者の意見
<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業の中頃であり、参加しにくい。期日の決定が遅かった。

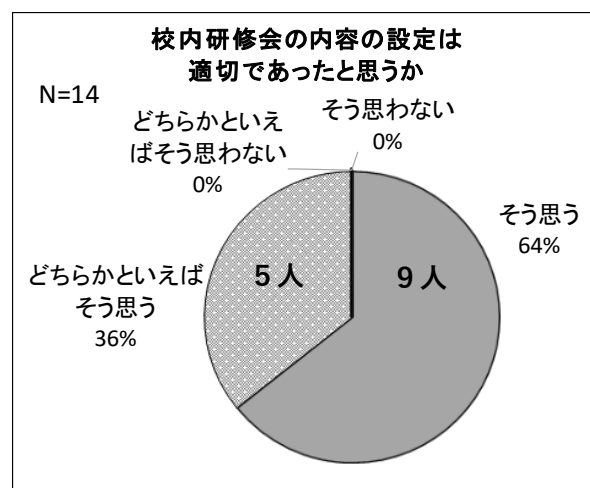
「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の回答が合わせて 90% (13 名) である。夏季休業中であるからこそ、全教職員一斉の保育参観の時間を設定できたが、同じく夏季休業であるからこそその否定的意見もある。本実践においては、年度途中での計画立案、3 校園の日程調整を行い、ごく限られた日程内で期日を設定したが、実際は、適切な期日について検討し、学校の年間計画に位置付けることが望まれる。また、研修会の内容によっては、本実践とは違った期日や時間の設定が可能となる。

(2) 時間・内容

校内研修会の時間の妥当性について回答を求めた結果は【図 4】の通り、校内研修会の内容の妥当性について回答を求めた結果は、【図 5】の通りである。また、時間と内容に関する意見（任意）を求めた回答の結果は、【表 6】、【表 7】の通りである。



【図 4】 校内研修会の時間



【図 5】 校内研修会の内容

【表 6】 校内研修会の時間の妥当性に関する意見 (N=14)

「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の回答者の意見
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な分野の研修が必要な中で、意義を明確にして、コンパクトに効率の良いものにしなければ現実的にならない。(内容についての回答と共通) ・講義・参観・研究協議と適切な時間配分であった。 ・子供にとって活動しやすい時間帯であった。

【表 7】 校内研修会の時間の妥当性に関する意見 (N=14)

「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の回答者の意見
<ul style="list-style-type: none"> ・様々な分野の研修が必要な中で、意義を明確にして、コンパクトに効率の良いものにしなければ現実的にならない。(時間についての回答と共通) ・保育園の授業参観は、園児の実態が分かり、大変有意義であった。 ・様々な選択ができる内容で価値があった。 ・動画等資料が多くあり、理解しやすかったです。

時間・内容ともに、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」の回答が合わせて100%（14名）である。その年度の教職員の実態や学校計画全体から校内研修会の目的を明確にし、前項で述べた期日の検討と併せて時間・内容についても検討することが望ましい。

(3) その他の意見

その他、校内研修会の実施についての意見（任意）を求めた結果は、【表8】の通りである。全て、肯定的意見であり、これからの幼小接続に関わり、保育参観・校内研修会・保幼小連携について建設的な意見も記述された。教職員が捉えた校内研修会の有用性については『校内研修会・幼小接続に関するアンケート』（校内研修会直後）の結果【補助資料7】に、より多くの意見を記載している。

【表8】校内研修会の実施に関する、その他の意見（自由記述）（N=14）

校内研修会の実施に関わる、その他の意見 【11】	
校内研修会の有用性	7
<ul style="list-style-type: none"> ・実施し体験すれば大切なものであることがよく分かる。 ・全員で湯本保育園の園児の様子を参観することができて良かった。幼児期の教育についての講義も有意義だった。 ・低学年の先生方だけではなく、全職員が参加したことにより、共通理解が図られ、1年生や保育園児・幼稚園児等の様子を知ることができた。 ・保育園・幼稚園での様子や指導について聞くことができ大変参考になりました。 ・幼稚園・保育園の先生方の意見はとても新鮮でした。 ・スタートカリキュラムを具体的に見たことがなかったので、知ることができて、勉強になりました。ありがとうございました。 ・自分に子供がいなかったりすると、就学前の子供の成長過程や暮らしの様子が分からないことがあるので、とても貴重な機会でした。 	
今後の実施に関わる意見	4
<ul style="list-style-type: none"> ・隣接している強みも生かして導入しやすい形態を検討したい。 ・今後も年1回、全職員で交流する場を設定していくことが大切だと感じた。 ・幼児期の運動経験に関わる研修・情報交流を是非やってみたい。 ・同じ年度に、保育園・幼稚園両方参観したいです。 	

※【 】・□は、同内容ののべ人数

【補助資料 10】質問紙「校内研修会に関するアンケート（事後）」

校内研修会に関するアンケート（事後）

お名前

◆ 8月1日に実施した、幼小の接続に関する校内研修会についてお答えください。

保育参観・校内研修会后 参加後の、ご自身の変化について

- 1 子供への指導についての意識の変化はありましたか。(ア)～(エ)から当てはまるものを1つ選び、○を付けてください。

(ア) あった	(イ) どちらかといえば あった	(ウ) どちらかといえば なかった	(エ) ない
---------	---------------------	----------------------	--------

- 2 1で、(ア)または(イ)と答えた方へお聞きします。

子供への指導についての意識はどのように変わりましたか。なるべく具体的にお書きください。

- 3 子供への実際の指導の仕方に変化はありましたか。(ア)～(エ)から当てはまるものを1つ選び、○を付けてください。

(ア) あった	(イ) どちらかといえば あった	(ウ) どちらかといえば なかった	(エ) ない
---------	---------------------	----------------------	--------

- 4 3で、(ア)または(イ)と答えた方へお聞きします。

子供への実際の指導の仕方がどのように変わりましたか。なるべく具体的にお書きください。

保育参観・校内研修会の実施について

◆ 5～8について、幼小の接続に関する校内研修会(ア)～(エ)から当てはまるものを1つ選び、○を付けてください。ご意見がございましたら、下段にお書きください。

- 5 期日の設定は適切だったと思われませんか。

(ア) そう思う	(イ) どちらかといえば そう思う	(ウ) どちらかといえば そう思わない	(エ) そう思わない
----------	----------------------	------------------------	------------

ご意見

- 6 時間の設定は適切だったと思われませんか。

(ア) そう思う	(イ) どちらかといえば そう思う	(ウ) どちらかといえば そう思わない	(エ) そう思わない
----------	----------------------	------------------------	------------

ご意見

- 7 内容の設定は適切だったと思われませんか。

(ア) そう思う	(イ) どちらかといえば そう思う	(ウ) どちらかといえば そう思わない	(エ) そう思わない
----------	----------------------	------------------------	------------

ご意見

- 8 その他、保育参観・校内研修会の実施についてのご意見がございましたら、お書きください。

アンケートは以上です。このアンケートの回答結果は、研究発表等で公表する場合があります。
お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

【補助資料 11】「弾力的な教育活動の構想と、10 の姿を生かした生活科カリキュラムの作成と実施に関するアンケート」の結果

I アンケート調査の概要

1 調査名	弾力的な教育活動の構想と、10 の姿を生かした生活科カリキュラムの作成と実施に関するアンケート			
2 目的	弾力的な教育活動の構想と、10 の姿を生かした生活科カリキュラムの作成の有効性を検証する。			
3 期 日	アンケート用紙配付・説明 平成 30 年 11 月 14 日 (水) アンケート用紙回収 平成 30 年 11 月 19 日 (月)			
4 対 象	7名 今年度の保幼小交流に関わりの多かった教職員 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>湯本保育園：園長，主任，4・5 歳児担任</td> </tr> <tr> <td>ゆもと幼稚園：園長，教務主任，5 歳児担任</td> </tr> <tr> <td>湯本小学校：1 学年担任</td> </tr> </table>	湯本保育園：園長，主任，4・5 歳児担任	ゆもと幼稚園：園長，教務主任，5 歳児担任	湯本小学校：1 学年担任
湯本保育園：園長，主任，4・5 歳児担任				
ゆもと幼稚園：園長，教務主任，5 歳児担任				
湯本小学校：1 学年担任				
5 方 法	調査紙法・面接法			
6 内 容	【補助資料 12】参照			
7 その他	・アンケート項目の内 2 つは、小学校教職員のみを対象としている。 ・園の教職員は、各人の立場によって保幼小連絡会と保幼小交流会への関わり方に差があったため、各人に関わりのある項目について回答を求めた。			

II 調査結果と分析

1 弾力的な教育活動の構想について

(1) 保幼小交流会の、生活科単元としての構想

保幼小交流会の生活科単元としての構想について 4 件法と自由記述で回答を求めた結果は、【表 1】の通りである。

【表 1】保幼小交流会の生活科単元としての構想 (n=6)

今年度の保幼小交流会を単発のイベントではなく生活科の単元として計画・実施し、子供の思いや願いを生かした単元の展開を行ったことは、 <u>1 年生の子供たちの主体的な学びにつながった</u> と思いますか。			
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
5	1	0	0
「 <u>そう思う</u> 」の回答者の意見			
<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度までの交流会は、私達教師が進める形だったが、今年度の交流会は、1 年生自身が「年長さんへ」という思いをもって活動していることが伝わってきた。 ・交流会に参加した 1 年生の様子を見ると、伝え合おうとしたり、協力する姿が見られたり等、主体的な学びへとつながったのではと思われます。 ・交流会の学習を行うことで、1 年生たちの意識が高まり、主体的に学び、より交流会が盛り上がったのだと思いました。 			
小1～2 学期のつながりある単元の一連の流れで、子供たちは段階を踏んで親しくなり、お互いのことを分かりながら、共に交流するという気持ちで活動していた。			
「 <u>どちらかといえばそう思う</u> 」の回答者の意見			
無記入			

※小1は、小学校教職員（1 学年担任）による意見。他は園の教職員による意見

(2) 合科的・関連的な指導

合科的・関連的な指導について4件法と自由記述で回答を求めた結果は、【表2】の通りである。

【表2】合科的・関連的な指導 (n=1)

生活科の学習の中に合科的・関連的な指導を取り入れることは、児童の思いや願いを生かし、主体的な活動の実現につながったと思いますか。			
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
1	0	0	0
「そう思う」の回答者の意見			
<p><input type="checkbox"/> 例えば図工との合科的な指導では、生活科の交流で相手を喜ばせたいという子供たちの願いや気持ちが生かされ、具現化された。相手を思いながら製作し主体的な活動につながった。</p>			

※は、小学校教職員（1学年担任）による意見。他は園の教職員による意見

2 10の姿を生かした生活科カリキュラムの作成と実施について

(1) 座席表等の活用

座席表等の活用について4件法と自由記述で回答を求めた結果は、【表3】の通りである。

【表3】座席表等の活用 (n=6)

10の姿のキーワードを入れ込み、本時で特に期待する姿に網掛けした座席表を見取りの記録に用いたことは、子供の発達や学びを捉え、見通すことにつながりましたか。			
つながった	どちらかといえばつながった	どちらかといえばつながらなかった	つながらなかった
4	2	0	0
「つながった」の回答者の意見			
<ul style="list-style-type: none"> ・キーワード・網掛けを使わなかった1学期の交流会に比べて、子供の力を明確に捉えやすくなった。 ・見取る視点をはっきりし、子供たちの発達や学びを捉え、見通すことにつながったと思われます。しかし、自分自身、全体というより、入ったグループまたは近くの子供の姿しか見られなかったことに反省です。 ・10の姿のキーワードを目印に、座席表から個人を確認し子供一人一人を捉えることができ、とても記録がスムーズにできました。子供の発達が、相手との関わりの方に反映されており、気づきを頂きました。この場面では、「発達」ということを深く考えさせられました。 <p><input type="checkbox"/> キーワードにしたことと網掛けによる焦点化によって、見取りがしやすくなった。教師が意識して子供を見取ることにつながったと思う。一人一人の子供の姿が前はどうかを振り返りながら子供を捉えることに有効だった。</p>			
「どちらかといえばつながった」の回答者の意見			
<ul style="list-style-type: none"> ・期待する姿が明確となり、焦点を絞って記録することができたと思います。子供の姿を見取り記録することの難しさを感じられ、勉強不足を痛感しました。 			

※は、小学校教職員（1学年担任）による意見。他は園の教職員による意見

(2) 具体の姿共有シートの活用

具体の姿共有シートの活用について4件法と自由記述で回答を求めた結果は、【表4】の通りである。

【表4】具体の姿共有シートの活用 (n=6)

具体の姿共有シートの活用により、子供の発達や学びを捉え、見通すことにつながりましたか。			
つながった	どちらかといえばつながった	どちらかといえばつながらなかった	つながらない
4	2	0	0

「つながった」の回答者の意見
<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体の姿共有シートを活用しての記入，とても良かったです。話し合い，また，まとめる際に，たくさんの情報が入り，全体と個の様子，発達について知ることができました。 ・ 子供を具体的な姿で共有できることが良かった。子供の具体的な姿を，10の姿と結び付けて捉えることは，まだ難しかった。 ・ 座席表等と同じように，つながったと思われるが，自分自身活用する範囲が狭かったと思われます（交流会後の反省会に参加できなかったため）。
<p>小 子供の様子を捉えるため，また，交流会後にそれを共有するために有効だった。自分の気付かなかった子供の様子を知った。シートが見やすかった。</p>
「どちらかといえばつながった」の回答者の意見
<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な子供の姿が10の姿のうちどれに当てはまるのか，子供たちを見ながら記録することの難しさが感じられ，勉強不足を痛感しました。

※小は，小学校教職員（1学年担任）による意見。他は園の教職員による意見

(3) 保幼小連絡会（カンファレンス※）での子供の姿の共有

※カンファレンス：学習や保育の実際，子供の様子等について，教職員が共有・検討を行う会議

保幼小連絡会（カンファレンス）での子供の姿の共有について4件法と自由記述で回答を求めた結果は，【表5】の通りである。

【表5】保幼小連絡会での子供の姿の共有（n=6）

保幼小連絡会（カンファレンス）を実施し見取りを共有したことで，子供の資質・能力を多面的・多角的に捉えることができましたか。			
できた	どちらかといえばできた	どちらかといえばできなかった	できなかった
6	0	0	0
「できた」の回答者の意見			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校教諭，幼稚園教諭，保育士それぞれの観点での見取りは園では気付かない見取り（評価）があり，一人一人をより多面的，多角的に捉えることにとって有意義と感じた。 ・ 保育園は，「あそびの保育」の中で，見る力や聞く力や考える力を存分に豊かにする大切さ，子供の資質・能力につながる重大さを感じ取ることができました。 ・ 特にペア決めでは，この子はどういう子なのか等を伝え合いながら話し合えて良かった。交流会後には，自分以外の目から見た子供の姿を知ることができた。 ・ 交流会後の共有で，自分が見えなかった子供の姿を，ほかの先生のお話から知ることができました。 			
<p>小 今までは，小学校に入れば小学校での様子で捉えがちだったが，園でどのような支援をしてきたかを聞くことができてありがたかった。どのようなことに気を付けていけば良いか，気付かされる部分が多かった。現1年生の在園時の情報や交流会で見取っていただいた情報のほかに，現5歳児の様子を共有することも，子供の育ちを理解し現1年生を見直すことにつながった。</p>			

※小は，小学校教職員（1学年担任）による意見。他は園の教職員による意見

(4) 保幼小連絡会（カンファレンス）での教職員間の学び

保幼小連絡会での教職員間の学びについて4件法と自由記述で回答を求めた結果は，【表6】の通りである。

【表6】保幼小連絡会での教職員間の学び（n=6）

保幼小連絡会（カンファレンス）を実施したことで，幼児期から児童期の子供の発達や学びや，互いの教育とその連続性等について幼小の教職員間での学びが生まれたと思いますか。			
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
6	0	0	0

「そう思う」の回答者の意見			
<ul style="list-style-type: none"> ・自分以外の先生（それぞれの視点）で、そういう考えもあるなあ等、学ぶことができた。小学校での指導の内容や方法について知ることができた。園でも卒園までに少しずつ取り入れたい。 ・連続性の大切さ重要性は認識していても、つながりの具体を感じることは難しい。保幼小連絡会があることで具体としてそれぞれの保育、教育を共有することで、それぞれの保育教育を理解し、何が大切かを学ぶことができた。園であれば、アプローチカリキュラムの具体の取組に生かされるものであると感じた。（その年その年で取組の重点部分が変わってくる。保幼小連絡会があることでその年の子供たちへのアプローチカリキュラムができる。）そのことが、学校での学習へのスムーズな移行となる。 ・在園中に指導してきたことが、そのときにすぐはできなくても、1年生になって発揮していることが見え、つながっていることを実感しました。 ・やはり幼・小と形ではつながっていましたが、今回、回を重ねることで、普段、感じていることも話すことができ、学びをもったつながりができて、とても感謝でした。連続性を意識した保育を自信をもって実践できるように、チームで頑張っていきたいです。 			
<small>小</small> 小学校の中で1番年下の1年生は、小さく何事も初めてで大変だという意識だったが、連絡会を通して、子供の発達の途切れない連続性への意識ができた。1年生であっても、それまでの積み上げがあることが分かった。			

※小は、小学校教職員（1学年担任）による意見。他は園の教職員による意見

(5) 1学年担任との打ち合わせ

1学年担任との打ち合わせの有効性について4件法と自由記述で回答を求めた結果は、【表7】の通りである。

【表7】 1学年担任との打ち合わせの有効性 (n=1)

授業後の打ち合わせを実施し見取りを共有したことで、 <u>子供の資質・能力を多面的・多角的に捉える</u> ことができましたか。			
できた	どちらかといえばできた	どちらかといえばできなかった	できなかった
1	0	0	0
「できた」の回答者の意見			
<small>小</small> この子供にそういう部分があったのかいという気付きがあった、子供の変容や足りない部分を認識しより広く子供理解することにつながり、その後の指導に役立てることができた。10の姿をキーワード化して活用してからは、ポイントを絞って話すことができた。			

※小は、小学校教職員（1学年担任）による意見。他は園の教職員による意見

(6) 発達や学びをつなぐ活動の設定

発達や学びをつなぐ活動の設定について4件法と自由記述で回答を求めた結果は、【表8】の通りである。

【表8】 発達や学びをつなぐ活動の設定 (n=6)

10の姿を視点とした見取りを生かした活動の設定を行うことは、 <u>子供が主体的に自己を発揮して学ぶこと</u> につながったと思いますか。			
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
5	1	0	0
「そう思う」の回答者の意見			
<ul style="list-style-type: none"> ・子供が主体的に自己発揮することをたくさん見取ることができました。個がどうなっているのか、集団がどのように動き出すのか、10の姿を視点とし、見取りを生かした活動の見取りを生かした活動の設定はたくさん気付きにつながると感じました。 ・例えばゲーム一つするにしても、1年生だけではなく、年長もたくさんいるため、こうすれば分かりやすいかな～？こっちのほうがいいかな～など、考えながら行ったことでゲームをする中で自分たちなりに考えてみたり、話し合ったりする子供たちの場面が見られたのではないかと思います。（これまでの子供たちの姿から、 			

リレーのチームをペープサートで示したことや、リレーでの相談の場面を設定したことなど)

- ・子供が主体的に自己発揮することをたくさん見取ることができました。個がどうなっているのか、集団がどのように動き出すのか、10の姿を視点とし、見取りを生かした活動の見取りを生かした活動の設定はたくさんの気づきにつながると感じました。
- ・1学期交流会のペアでの関わりを見取り、その上で2学期の交流会のグループでの活動を設定したところ、1学期には話せなかった子も伝えようとしていて、子供たちがもつ力を出したり伸ばしたりしていることが分かりました。

小 子供がもつ力を生かす活動をステップを踏んで設定し、子供が主体的に活動できた。子供の見取りがあったかこそ、こうしたいという子供の願いを生かし、かつ、力を発揮させる活動の設定ができたと感じる。

「どちらかといえばそう思う」の回答者の意見

- ・主体的に自己を発揮するための活動を設定して下さった先生方、とても勉強になりました。学校探検で、1年生が年長児を自分なりにリードして歩いている場面が印象的でした。

※小は、小学校教職員（1学年担任）による意見。他は園の教職員による意見

(7) 発達や学びをつなぐ個への支援

発達や学びをつなぐ個への支援について4件法と自由記述で回答を求めた結果は、【表9】の通りである。

【表9】発達や学びをつなぐ個への支援（n=6）

10の姿を視点とした見取りを生かした個への支援を行うことは、 <u>子供が主体的に自己を発揮して学ぶこと</u> につながったと思いますか。			
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
6	0	0	0
「そう思う」の回答者の意見			
<ul style="list-style-type: none"> ・10の姿を視点とした見取りは、個を深く捉えることにつながると感じました。個への支援が、個へのアクションでもありますが、集団の色を変える大きな支援なので、個への支援を自己発揮につなげていきたいです。 ・いつも発揮できているのに、できていない（今回）子などに教師が声をかけたりすると、いつもの姿に戻ったり、必要な最低限の支援をしたことで自己発揮につながっていたりするため、その子一人一人に応じた支援が必要だと思う。1年生でも、教師による言葉がけで気付かせることが必要な子もあり、その子の育ちの段階をよく知った上で、合った支援ができて良かった。 ・1学期の交流会で丁寧に見取ったことを先生方で共有し、それを生かしたペア編成を行うことで、自信をもって活動できるようになるなど2学期の子供たちの関わり方がとてもよくなりました。 <p>小 連絡会で話題になり共有した見取りをもとに支援ができた。その結果、子供たちがのびのびと楽しんで活動をしていた。生活科や交流会での支援だけではなく、ほかの教科や生活の場面でも一人一人の力を発揮させるような支援につながった。</p>			

※小は、小学校教職員（1学年担任）による意見。他は園の教職員による意見

【補助資料 12】質問紙「弾力的な教育活動の構想と、10 の姿を生かした生活科カリキュラムの作成と実施に関するアンケート」

弾力的な教育活動の構想と、10 の姿を生かした生活科カリキュラムの作成と実施
に関するアンケート（1 学年担任用）

お名前

弾力的な教育活動の構想について

- 1 今年度の保幼小交流会を単発のイベントではなく生活科の単元として計画・実施し、子供の思いや願いを生かした単元の展開を行ったことは、1 年生の子供たちの主体的な学びにつながったと思いますか。(ア)～(エ)から当てはまるものを1つ選び、○を付けてください。ご意見がございましたら、下段にお書きください。

(ア) そう思う (イ) どちらかといえば
そう思う (ウ) どちらかといえば
そう思わない (エ) そう思わない

ご意見

- 2 生活科の学習の中に合科的・関連的な指導を取り入れることは、児童の思いや願いを生かし、主体的な活動の実現につながったと思いますか。(ア)～(エ)から当てはまるものを1つ選び、○を付けてください。ご意見がございましたら、下段にお書きください。

(ア) そう思う (イ) どちらかといえば
そう思う (ウ) どちらかといえば
そう思わない (エ) そう思わない

ご意見

10 の姿を生かした生活科カリキュラムの作成と実施について

- 3 10 の姿のキーワードを入れ込み、本時で特に期待する姿に網掛けした座席表を見取りの記録に用いたことは、子供の発達や学びを捉え、見通すことにつながりましたか。(ア)～(エ)から当てはまるものを1つ選び、○を付けてください。ご意見がございましたら、下段にお書きください。

(ア) つながった (イ) どちらかといえば
つながった (ウ) どちらかといえば
つながらなかった (エ) つながらなかった

ご意見

- 4 具体の姿共有シートの活用により、子供の発達や学びを捉え、見通すことにつながりましたか。(ア)～(エ)から当てはまるものを1つ選び、○を付けてください。ご意見がございましたら、下段にお書きください。

(ア) つながった (イ) どちらかといえば
つながった (ウ) どちらかといえば
つながらなかった (エ) つながらなかった

ご意見

裏面へお進みください

- 5 保幼小連絡会（カンファレンス）を実施し見取りを共有したことで、子供の資質・能力を多面的・多角的に捉えることができたか。（ア）～（エ）から当てはまるものを1つ選び、○を付けてください。ご意見がございましたら、下段にお書きください。

（ア）できた	（イ）どちらかといえば できた	（ウ）どちらかといえば できなかった	（エ）できなかった
ご意見			

- 6 保幼小連絡会（カンファレンス）を実施したことで、幼児期から児童期の子供の発達や学びや、互いの教育とその連続性等について幼小の教職員間での学びが生まれたと思いますか。（ア）～（エ）から当てはまるものを1つ選び、○を付けてください。ご意見がございましたら下段にお書きください。

（ア）そう思う	（イ）どちらかといえば そう思う	（ウ）どちらかといえば そう思わない	（エ）そう思わない
ご意見			

- 7 授業後の打ち合わせを実施し見取りを共有したことで、子供の資質・能力を多面的・多角的に捉えることができたか。（ア）～（エ）から当てはまるものを1つ選び、○を付けてください。ご意見がございましたら、下段にお書きください。

（ア）できた	（イ）どちらかといえば できた	（ウ）どちらかといえば できなかった	（エ）できなかった
ご意見			

- 8 10の姿を視点とした見取りを生かした活動の設定を行うことは、子供が主体的に自己を発揮して学ぶことにつながったと思いますか。（ア）～（エ）から当てはまるものを1つ選び、○を付けてください。ご意見がございましたら、下段にお書きください。

（ア）そう思う	（イ）どちらかといえば そう思う	（ウ）どちらかといえば そう思わない	（エ）そう思わない
ご意見			

- 9 10の姿を視点とした見取りを生かした個への支援を行うことは、子供が主体的に自己を発揮して学ぶことにつながったと思いますか。（ア）～（エ）から当てはまるものを1つ選び、○を付けてください。ご意見がございましたら、下段にお書きください。

（ア）そう思う	（イ）どちらかといえば そう思う	（ウ）どちらかといえば そう思わない	（エ）そう思わない
ご意見			

アンケートは以上です。このアンケートの回答結果は、研究発表等で公表する場合があります。お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

弾力的な教育活動の構想と、10の姿を生かした生活科カリキュラムの作成と実施
に関するアンケート（園教職員用）

お名前

弾力的な教育活動の構想について

- 1 今年度の保幼小交流会を単発のイベントではなく生活科の単元として計画・実施し、子供の思いや願いを生かした単元の展開を行ったことは、1年生の子供たちの主体的な学びにつながったと思いますか。（ア）～（エ）から当てはまるものを1つ選び、○を付けてください。ご意見がございましたら、下段にお書きください。

（ア） そう思う （イ） どちらかといえば そう思う （ウ） どちらかといえば そう思わない （エ） そう思わない

ご意見

10の姿を生かした生活科カリキュラムの作成と実施について

- 2 10の姿のキーワードを入れ込み、本時で特に期待する姿に網掛けした座席表を見取りの記録に用いたことは、子供の発達や学びを捉え、見通すことにつながりましたか。（ア）～（エ）から当てはまるものを1つ選び、○を付けてください。ご意見がございましたら、下段にお書きください。


（ア） つながった （イ） どちらかといえば つながった （ウ） どちらかといえば つながらなかった （エ） つながらなかった

ご意見

- 3 具体の姿共有シートの活用により、子供の発達や学びを捉え、見通すことにつながりましたか。（ア）～（エ）から当てはまるものを1つ選び、○を付けてください。ご意見がございましたら、下段にお書きください。

（ア） つながった （イ） どちらかといえば つながった （ウ） どちらかといえば つながらなかった （エ） つながらなかった

ご意見

裏面へお進みください 

- 4 保幼小連絡会（カンファレンス）を実施し見取りを共有したことで、子供の資質・能力を多面的・多角的に捉えることができましたか。（ア）～（エ）から当てはまるものを1つ選び、○を付けてください。ご意見がございましたら、下段にお書きください。

（ア）できた	（イ）どちらかといえば できた	（ウ）どちらかといえば できなかった	（エ）できなかった
ご意見			

- 5 保幼小連絡会（カンファレンス）を実施したことで、幼児期から児童期の子供の発達や学びや、互いの教育とその連続性等について、幼小の教職員間での学びが生まれたと思いますか。（ア）～（エ）から当てはまるものを1つ選び、○を付けてください。ご意見がございましたら、下段にお書きください。

（ア）そう思う	（イ）どちらかといえば そう思う	（ウ）どちらかといえば そう思わない	（エ）そう思わない
ご意見			

- 6 10の姿を視点とした見取りを生かした活動の設定を行うことは、子供が主体的に自己を発揮して学ぶことにつながったと思いますか。（ア）～（エ）から当てはまるものを1つ選び、○を付けてください。ご意見がございましたら、下段にお書きください。

（ア）そう思う	（イ）どちらかといえば そう思う	（ウ）どちらかといえば そう思わない	（エ）そう思わない
ご意見			

- 7 10の姿を視点とした見取りを生かした個への支援を行うことは、子供が主体的に自己を発揮して学ぶことにつながったと思いますか。（ア）～（エ）から当てはまるものを1つ選び、○を付けてください。ご意見がございましたら、下段にお書きください。

（ア）そう思う	（イ）どちらかといえば そう思う	（ウ）どちらかといえば そう思わない	（エ）そう思わない
ご意見			

アンケートは以上です。このアンケートの回答結果は、研究発表等で公表する場合があります。お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

【補助資料 13】「単元配列表・単元指導計画の作成と見直しに関するアンケート」の結果

I アンケート調査の概要

- | | | |
|---|-----|---|
| 1 | 調査名 | 単元配列表・単元指導計画の作成と見直しに関するアンケート |
| 2 | 目的 | 単元配列表・単元指導計画の作成と見直しの有効性を検証する。 |
| 3 | 期日 | 11月6日（火） |
| 4 | 対象 | 2名
単元配列表・実践単元指導計画の見直しを実施した小学校教職員
（湯本小学校1学年担任・湯本小学校教務主任） |
| 5 | 方法 | 質問紙法・面接法 |
| 6 | 内容 | 【補助資料 14】参照 |

II 調査結果と分析

1 生活科と他教科等との関連を俯瞰できる単元配列表の作成

生活科と他教科等との関連を俯瞰できる単元配列表の作成の有効性について回答を求めた結果と、そのことに関する意見（任意）を求めた回答の結果は、【表 1】の通りである。

【表 1】生活科と他教科等との関連を俯瞰できる単元配列表の作成の有効性（N=2）

生活科と他教科等との関連を俯瞰できる単元配列表を作成したことは、子供たちの思いや願いを実現する学習活動の展開につながったと思うか。			
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
2	0	0	0
「そう思う」の回答者の意見			
・全体的見直しをもつことができるので良いと思う。			

2名とも、生活科と他教科等との関連を俯瞰できる単元配列表の有用性を感じている。

本調査の対象者により単元配列表・単元指導計画の評価・見直しを実施した際に、子供たちの思いに沿った単元の展開を行うために予め教師が単元間の関連を把握できることの良さや、年度途中で指導計画を見直し変更するなど弾力的な教育活動を行う際に時数の見直しももちやすくなるという良さ、また、そういったことに生かすために、単元配列表の教科全体が見渡せる形式であることの良さについて話題となった。

2 単元配列表・単元指導計画の評価・見直し

単元配列表・単元指導計画の評価・見直しの有効性について回答を求めた結果と、そのことに関する意見（任意）を求めた回答の結果は、【表 2】の通りである。

【表 2】単元配列表・単元指導計画の評価・見直しの有効性（N=2）

単元配列表・単元指導計画の評価・見直しを複数の教職員により行うことで、多角的な視点での見直しとなり、より良いカリキュラム案として次年度へ引き継ぐことができると思うか。			
そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
1	1	0	0

「そう思う」の回答者の意見

- ・複数の職員と言っても、直接関わっていないと分からない部分があるので、誰でもというわけではない。本校は単学級の学年が多いが、今回のように複数の職員で見直しできれば視点が変わって良い。

「どちらかといえばそう思う」の回答者の意見

- ・具体的な中身は、やった者にしか分からないので、1年ごとに担当が修正すべき。現実的ではない。1学年担任が複数いる場合や、今年度のように1学年担任と研究担当者が共有できている場合は良いが、教務主任が見直しに参加しても、単元のつながりについては分からないので、多角的な視点での見直しにはつながらない。単元配列表を変えた意味を共有するために、複数で見直すことは大切。

1学年担任と教務主任の2名とも、複数の教職員による見直しがより多角的な視点での見直しにつながると感じてはいるものの、本校の学校規模では「複数の教職員による見直し」は、現実的ではないと考えていることが分かる。本実践において単元配列表の見直しを行った際には、研究担当者として1学年担任が1年生の子供たちや指導内容の実際を共通理解していることによって、主にこの2名による複数の視点での見直しが可能になりより良い改善につながった。学年に複数の担任がいる場合は、今回と同様に同学年の担任間での見直しが有効になされるが、単学級の場合は学年の実情を共有できる教職員がおらず、複数人による見直しが難しいという考えである。

しかし、低学年の担任間、中学年の担任間で単元配列表について見直す等、単学級の学年であっても複数の教職員による見直しの工夫の余地があると考え。むしろ、他学年であっても共通に大切にしたい単元配列表作成・見直しについての基本となる考え方を再確認したり、2学年間でのつながりや発展についての気付きが生まれたりというメリットがある。

単元配列表の見直しに教務主任の参加があったことは、本校としての単元配列表の作成・見直しの基本となる考え方が確認、共有されたことにおいては意義があるものであったと捉えられた。

今回の単元配列表等の見直しが一担任の個人的な工夫・改善にとどまらず教務主任と共有されたことにより、改善された単元配列表や共有された考え方が学校の財産として次年度へ引き継がれ、来年度の1学年や他学年のカリキュラムに生かされると考えられる。

単元配列表・単元指導計画の作成と見直しに関するアンケート

お名前

◆生活科と他教科等との関連を俯瞰できる単元配列表の作成と見直しについてお答えください。

1 生活科と他教科等との関連を俯瞰できる単元配列表を作成したことは、子供たちの思いや願いを実現する学習活動の展開につながったと思いますか。(ア)～(エ)から当てはまるものを1つ選び、○を付けてください。ご意見がございましたら、下段にお書きください。

(ア) そう思う	(イ) どちらかといえば そう思う	(ウ) どちらかといえば そう思わない	(エ) そう思わない
----------	----------------------	------------------------	------------

ご意見

2 単元配列表・単元指導計画の評価・見直しを複数の教職員により行うことで、多角的な視点での見直しとなり、より良いカリキュラム案として次年度へ引き継ぐことができると思いますか。(ア)～(エ)から当てはまるものを1つ選び、○を付けてください。ご意見がございましたら、下段にお書きください。

(ア) そう思う	(イ) どちらかといえば そう思う	(ウ) どちらかといえば そう思わない	(エ) そう思わない
----------	----------------------	------------------------	------------

ご意見

アンケートは以上です。このアンケートの回答結果は、研究発表等で公表する場合があります。お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

【補助資料 15】保幼小交流会と連絡会の実施に関する調査の結果

I アンケート調査の概要

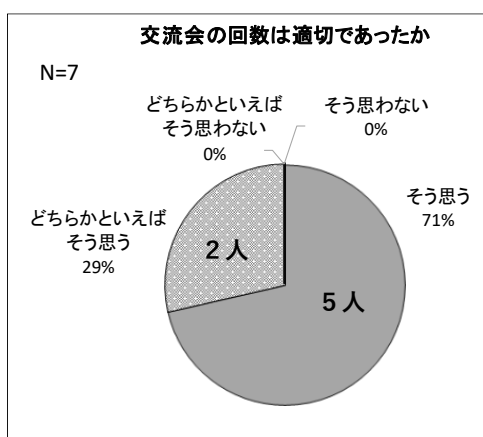
1	調査名	保幼小交流会と連絡会の実施に関する調査
2	目的	保幼小交流会と連絡会の設定の妥当性を検証するため。
3	期日	10月23日(火)
4	対象	7名 保幼小連絡会(10月23日)参加者 <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 20px;"> 湯本保育園：園長，主任，4・5歳児担任 ゆもと幼稚園：園長，教務主任，5歳児担任 湯本小学校：1学年担任，教務主任(他用務のため，後日調査) </div>
5	方法	面接法(連絡会での年間反省を通して)

II 調査結果と分析

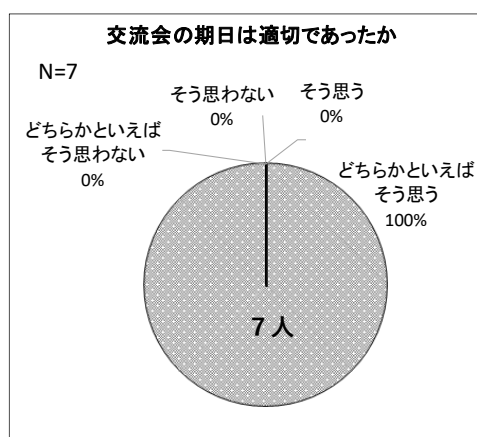
1 交流会の実施について

今年度の湯本ブロック保幼小交流会は，1学期に1回(交流会①)，2学期に2回(交流会②，交流会③)の計3回実施された。このうち，交流会①②は本研究の実践として実施したものである。

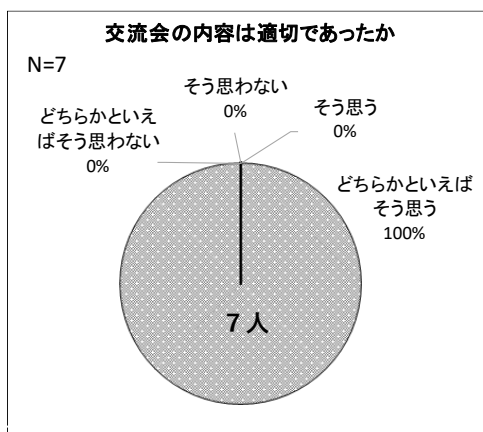
交流会の回数，期日，内容，時間の妥当性について回答を求めた結果は，それぞれ【図1】，【図2】，【図3】，【図4】の通りである。



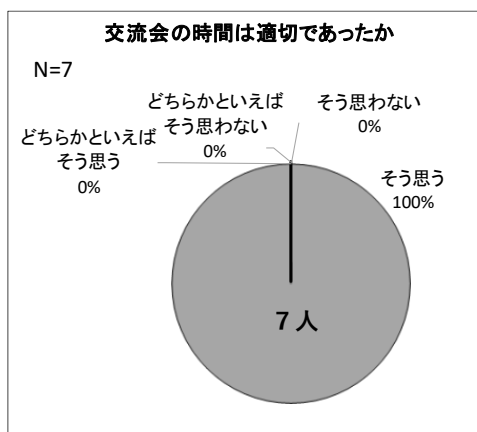
【図1】 交流会の回数



【図2】 保幼小交流会の期日



【図3】 保幼小交流会の内容



【図4】 保幼小交流会の時間

(1) 交流会の回数

交流会の実施回数は、例年は2学期に2回の実施であったが、今年度は1学期にも交流会を実施したことにより1回増えている。

全体的に「一層交流が図られ良かった」、「今の子供たちの姿を見て、3回交流できたことに感謝している」等、交流回数が増えたことを評価している。

一方で、「どちらかといえばそう思う」と回答した2名は小学校教職員であり、「交流の回数が増えれば、準備も増える。日々の授業をしながらの交流準備は、厳しかった」という理由であった。

湯本ブロックでは各校園の年間計画に保幼小交流会が位置付けておらず、その年度の交流の計画については、「花巻市の保幼小連携研修一ブロック会議一」（今年度は5月末に実施）において3校園の連携窓口担当者（1学年担任・5歳児担任）が相談する。その案を各校園に持ち帰り、校内での調整・決裁を経てからの具体的な計画立案となる。そのような流れの中で、今年度は1学期に交流会①を含む生活科単元（3時間）を実施したために、1学年担任は1学期の学習内容や時数の調整が必要となり負担となった。

このことは、前年度中に保幼小連携の大まかな計画（日程）を相談して各校園の年間計画に位置付けること、また、それを踏まえて1年生の単元配列表を見直すことで改善が図られる。そうすることにより、担任は、交流会に関わる取組を場当たり的に行うのではなく、学期の教育活動全体についての見通しをもって指導に当たることができる。本実践においては、8月に単元配列表を作成し、2学期の交流会②を含む生活科単元について時数や内容の見通しをもちながら実践を行うことができた。

(2) 交流会の期日

全員が「どちらかといえばそう思う」と回答したのは、「交流会②の期日が保育園の運動会直後であり、交流会に関わっての年長児の活動や意識の継続が十分でなかった」という反省によるものである。

同時に、「3校園の日程の調整の結果なので、仕方がないこと」、「むしろ、3回交流できてよかった」という捉えがなされていた。

3校園の日程調整の上のものであり、今年度については最善と思われる期日を選んだということになる。ただし、前項でも述べたように早い時期に次年度の保幼小連携の年間計画を立てることが、各校園の年間計画を見通しより良い日程の検討につながる可能性があると考える。

(3) 交流会の内容

全員が「どちらかといえばそう思う」と回答したのは、「交流会①では雨天のために活動内容を変更したが協同性を高めることをねらいとした内容に工夫が必要だった」という反省によるものである。具体的には、「交流会①での主な活動は自由遊びであったが、その前にふれあい遊びがあればよかった」等の意見があった。

全体については、「交流会①、②、③をトータルで見ると、良い流れであった」、「年長児にとっては小学校への期待感が高まる流れだった」、「両者にとって次第に関わりが深まる流れだった」と言える。

(4) 交流会の時間

交流会①～③について、全員が「そう思う」と回答しており、子供たちが無理なく十分な活動ができる適切な時間設定であったと評価できる。

(5) その他

交流会の設定について、その他の意見（任意）を求めた回答の結果は、【表1】の通りである。

【表1】交流会の設定に関するその他の意見（N=7）

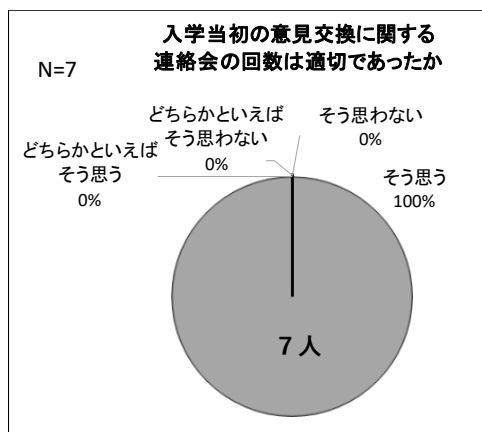
交流会の設定に関する、その他の意見
・毎年、交流会の会場は小学校であったが、小学校だけでなく園も使い、お互いに行き来できたことが良かった。
・招待状を届けるために園を訪問したことも含め、1年生の子供たちが両園で活動してより親しみをもつことができた。

2 連絡会の設定について

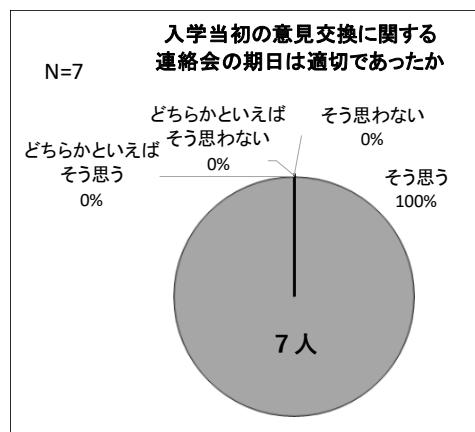
(1) 連絡会（入学当初の意見交換）

幼稚園・保育園教職員による1年生の学習参観後（4月）の意見交換の場として設定した連絡会（全1回）。例年は実施しておらず、初の試みであった。

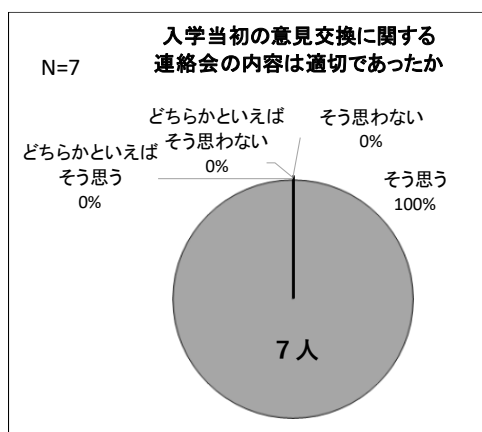
連絡会（入学当初の意見交換）の回数、期日、内容、時間の妥当性について回答を求めた結果は、それぞれ【図5】、【図6】、【図7】、【図8】の通りである。



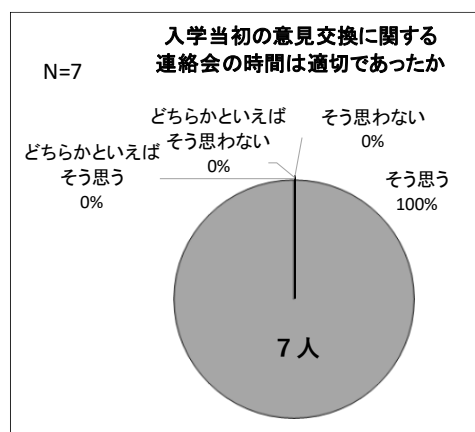
【図5】入学当初の意見交換に関する連絡会の回数



【図6】入学当初の意見交換に関する連絡会の期日



【図7】入学当初の意見交換に関する連絡会の内容



【図8】入学当初の意見交換に関する連絡会の時間

ア 回数・期日

「幼小の円滑な接続のために、4月の参観を通しての意見交換が、幼小接続にとって意味が

大きい」という理由から、全員が「適切である」と回答した。

イ 内容

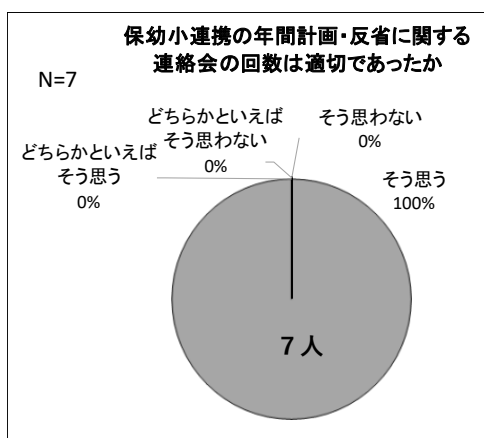
園の先生方から、参観授業での1年生や1学年担任の様子についての感想と、気になる子供の在園時の様子や支援、成長について聞くことで、1学年担任がその後の指導に役立てることができた。また、園の先生からは、卒園児の入学後の姿を見たり1学年担任から様子を聞いたりすることで、園の保育を見直すことにつながったということが話題になった。

ウ 時間

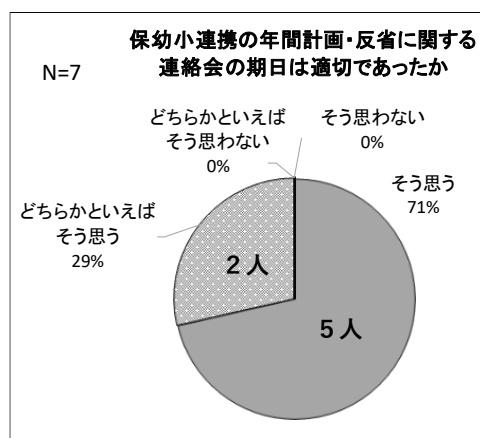
3校園の都合を調整した結果、17時開始とし、気軽に集まれるように30分間の予定で設定したが、参加者が一人ずつ感想を話すだけで40分かかった。一旦そこで閉会した後も話が盛り上がり、最終的に50分かかった。「本来1時間かかる内容であったので、1時間で妥当」、「延長したことは、あの時点では良かった。お一人お一人の話されたことが、とても大切な言葉だったので、私たち自身の勉強になった」といった意見が挙がり、結果として、1時間の設定が妥当であったと考えられる。改善策として、「1時間かかることが分かったので、逆算して早めに始めるようにしたい」、「同じ園の職員が話す内容が重複しないようにすると時間の短縮になる。例えば、担任は子供の目線、別の方は昨年度の子供の目線で、園全体から、というように意識して話されると良い」という意見が出された。

(2) 連絡会（年間計画・年間反省）

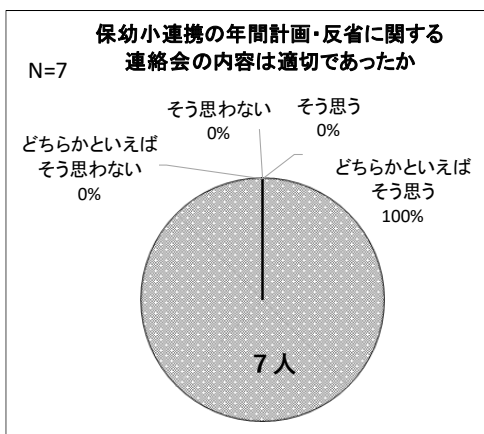
連絡会（年間計画・年間反省）の回数、期日、内容、時間の妥当性について回答を求めた結果は、それぞれ【図9】、【図10】、【図11】、【図12】の通りである。



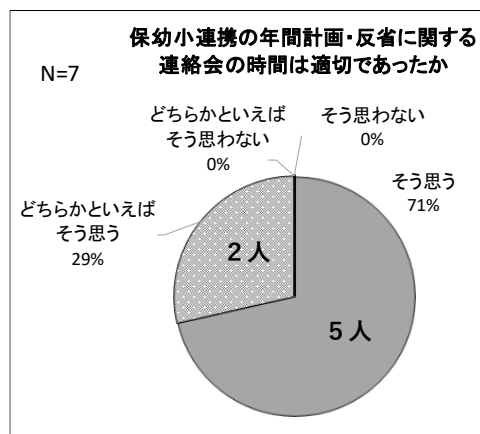
【図9】年間計画・年間反省に関する連絡会の回数



【図10】年間計画・年間反省に関する連絡会の期日



【図11】年間計画・年間反省に関する連絡会の内容



【図12】年間計画・年間反省に関する連絡会の時間

ア 回数・期日・内容

湯本ブロックの保幼小連携の年間計画は、例年通り、花巻市が設定したブロック会議（今年度は5月末）において、保幼小連携担当者間で話し合い、その日程を各校園に持ち帰り検討した。しかし、ブロック会議前に日程を決めていれば、ブロック会議では連携の内容について話し合うことができる。

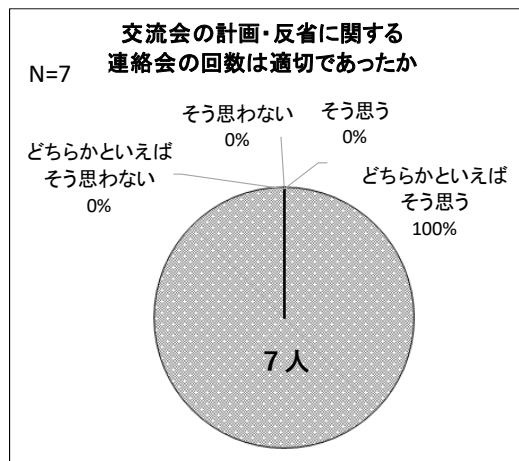
「保幼小連携が軌道に乗ってきていることを考えれば、次の年度の日程を今年度中に地域で相談して計画に入れ、ブロック会議ではその日程で何をするのかを話し合うことができる。5月末に年間計画を立てるのは少し遅く、また、ブロック会議の時間を有効に使える。交流会の計画を前倒して行えることで、小学校側の負担が少しでも軽減されるのでは。湯本ブロックはこの1校2園だけであり、その地域性を生かせばできる」という意見が出された。今年度の2・3月に、これまでの実績を踏まえて、湯本ブロックの来年度の計画を相談したい。

イ 時間

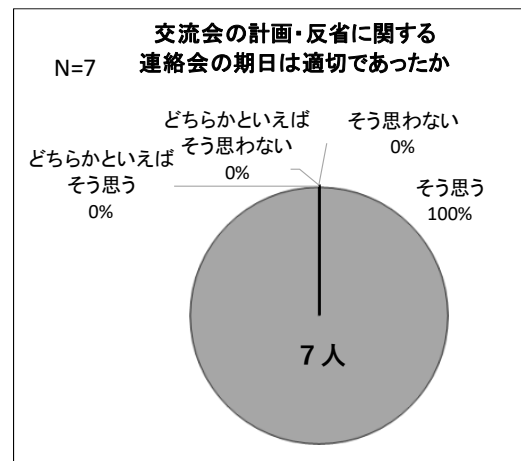
年間反省会の時間設定を早い時間帯にすることが望ましい。

(3) 連絡会（交流会の計画・反省）

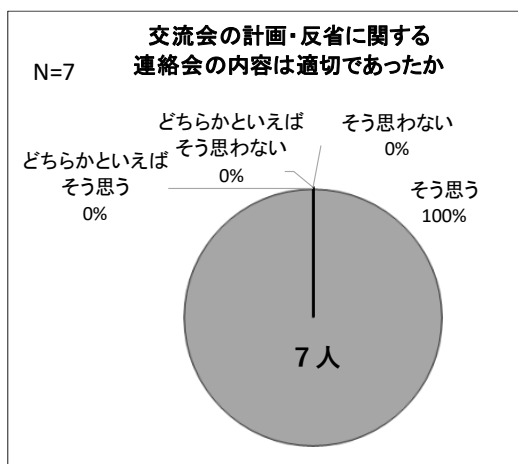
連絡会（交流会の計画・反省）の回数、期日、内容、時間の妥当性について回答を求めた結果は、それぞれ【図13】、【図14】、【図15】、【図16】の通りである。



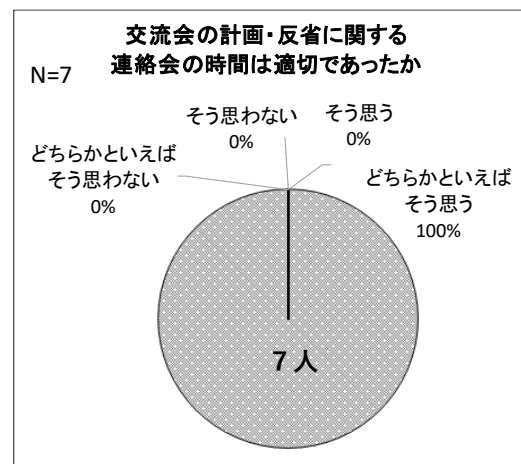
【図13】 交流会の計画・反省に関する連絡会の回数



【図14】 交流会の計画・反省に関する連絡会の期日



【図15】 交流会の計画・反省に関する連絡会の内容



【図16】 交流会の計画・反省に関する連絡会の時間

ア 回数・期日・時間・内容

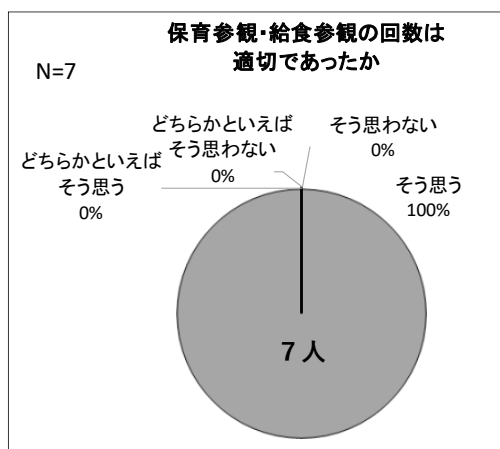
1学期にも交流会を実施したため、その計画・反省に関わる連絡会（第2回・第3回）が例年よりも増えた。また、1年生の生活科の授業を踏まえて交流会②の詳しい計画を立てるために、年度当初に設定した連絡会（第4回）のほかにも実施（第5回）し、さらに、交流会②の後に反省（第6回）を設けた。

「今年度実施した内容からすると、なくてはならなかったと思う」、「今年度はペア決めをしっかりできて、さらにその反省からグループ作りができたことに、すごく意味があった」等の意見があり、子供たちについての共有を生かしたペアづくり、グループ作りの時間は今後も削らずに行うことが望まれた。

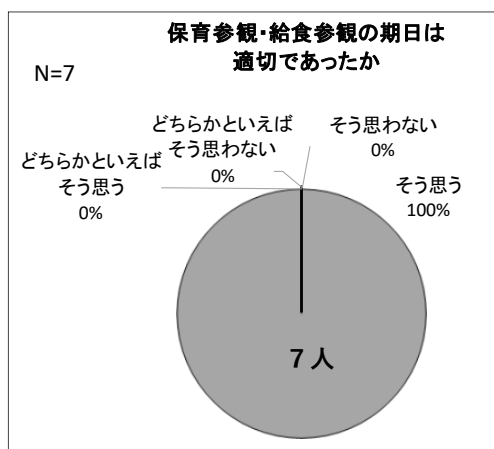
ブロック会議前に年間の日程が決められ、ブロック会議で内容を詰めることで、連絡会の回数を減らすことや時間を短縮することにつながる。また、今年度の保幼小連携の経験を生かすことで、来年度の交流会の計画等にかかる時間は短縮され则认为られる。さらに、例年は3校園の担任間で調整していたこと（招待状を届ける日程等）を、研究担当者の実践との関連から、全員が揃う連絡会の中で行ったことで、連絡会に時間がかかった回もある。この部分も、来年度以降は時間短縮になる。

3 保育参観・給食参観の設定について

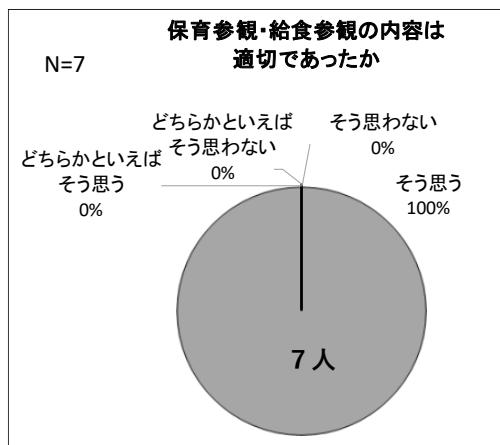
保育参観・給食参観の回数，期日，内容，時間の妥当性について回答を求めた結果は，それぞれ【図17】，【図18】，【図19】，【図20】の通りである。



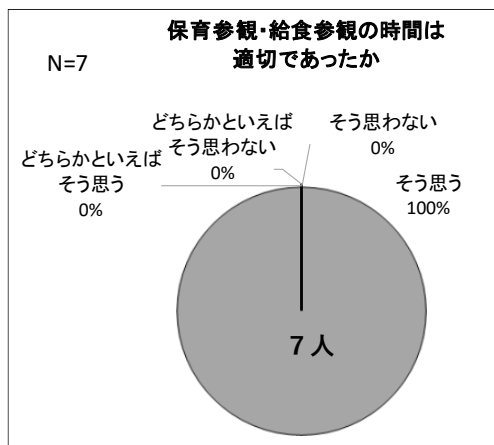
【図17】 保育参観・給食参観の回数



【図18】 保育参観・給食参観の期日



【図19】 保育参観・給食参観の内容



5【図20】 保育参観・給食参観の時間

「花巻市の保幼小連携の事業として決めた日以外にも、思い立ったら来ていただけると良い」
「連携窓口担当者（1学年担任・5歳児担任）に限らず、ブロック内で、気軽に行き来したい」と
いうことが話し合われた。

4 子供に育った力、これから期待する姿

今年度の保幼小連携において子供を共有する視点として来た「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の「協同性」、「言葉による伝え合い」について、保幼小連携を通して、各校園の子供たちに育った力と、年度末に向けて伸ばしていきたい力について話し合った。

(1) 1年生

- ・園児の様子を見たり活動を共にしたりする中で、自分が喜ぶだけではなく、どうしたら相手も喜ぶか考えながら行動する力が付いた。
- ・子供たち自身が楽しみながら一緒に活動できた。来年度、1年生と2年生の関係になっても、ますます仲良く交流できるのではないかと期待がもてる。
- ・読書などで言葉が豊かになってきている。活動の幅が広がったことにより、その力を発揮して言い表すことができた。
- ・1年間の終わりには、新1年生を迎える意識を高め、1年生を迎える会の取組などで伝える力を伸ばしたい。

(2) 幼稚園

- ・交流会を重ねるごとに、言葉で伝える姿が増えて来た。協調性がない子供も、お兄さんお姉さんと一緒にこういうことをできたということが見られるようになった。回を重ねるにつれて、嬉しい表情が見られた。
- ・1年生に優しく接してもらったことが嬉しかったようで、交流会後に2歳児をお世話する姿が多く見られるようになって来た。入学に向けて、また入学後も、関わる対象が広がることが期待される。

(3) 保育園

- ・交流会①では、相手に伝えることがなかなか見られなかったが、交流会②では、1年生に対して「トイレに行きたい」、「ここを見たい」などと伝える姿が見られ、段階を踏んで成長したと感じる。
- ・交流会から帰ると、4歳児に対して「今日は何をしたよ」等、経験を伝える姿が回を重ねるごとに多く見られるようになった。
- ・少人数の仲間同士では、言葉にしなくとも伝わる部分がある。言葉でしっかり伝えることを伸ばしたい。

5 その他（上記の反省で話し合われたこと以外の意見）

- ・幼保小教職員のパートナーシップ。養護教諭から、園の先生と話す機会があって良かった、という話。交流会に関わって、先生方が積極的にアイデアを出したり臨機応変に動いたりしてくださった。子供同士だけではなく、先生同士での関わりが深まったことが良かった。勉強になることが多く、それぞれの世界から得るものがあった。
- ・連絡会・交流会だけではなく、8月に保育参観を校内研修会に入れていただいた。保幼小連携

ということから、お互いがやっていることを、担当者だけではなく、学校全体・園全体で考えていただいた。お互いがやっていることが、見えない、分からないではなく、そこから理解し、実際に見て感じていただいて、大事なところはここだよねと施設間で確認することが大切な部分だったと感じる。

- 年度当初の計画で、連絡会の初めの時間だけが決められていた。時間設定については検討が必要な連絡会があった。
- 研究担当者が頻繁に来園した際に、小学校の先生の立場として思っていることを発信していただいたり、保育園教職員が年長児のことを発信したりと、行き交うことが多く良かった。教師が全部考えないで子供たちが考えること、子供たちが話していることや気付いていることを観察しようということが、保育にも通じると感じた。
- 保幼小交流を通して、教師自身が10の姿を見直すきっかけになった。10の姿を意識して日々の保育で子供たちに伝えたことが交流会に活かされたことが、子供たちの姿から見えた。交流会が全てではなく、その前後にあった伝え合い等が大きく影響したと感じる。

【補助資料 16】生活科以外での 10 の姿の見取りの例（特別活動）

授業観察記録（特別活動）

- 1 日 時 平成 30 年 9 月 5 日（水） 5 校時
- 2 児 童 湯本小学校 1 年 1 組（男子 16 名 女子 11 名 27 名）
- 3 授業者 T 1 1 学年担任 T 2 栄養教諭
- 4 授業の実際

- (1) 学級活動 題材名「すききらいしないでなんでもたべよう」
- (2) 本時の目標

- ・食品の働きを知り、バランスよく食べることが大切であることが分かる。
- ・健康な体を保つために、好き嫌いをしないで何でも食べようとする意欲を持つことができる。

- (3) 研究との関わりから

本時の題材と特に関りが深い「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、「健康な心と体」であると考え。そのほかにも、学習の基盤となっている「言葉による伝え合い」や「協同性」、「思考力の芽生え」等、様々な姿が現れると考える。

- (4) 授業の記録と考察

主な学習活動	10 の姿を視点とした考察
<p>〈前略〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>三つの元気玉（食品群）の代表的な食品について知る場面</p> </div> <p>T 2 黄色い元気玉の食べ物は、（絵カード「ご飯」を提示）何でしょう？</p> <p>C ご飯。</p> <p>T 2 みんなが毎日食べるご飯とか、</p> <p>C <u>今日もご飯食べてる。</u></p> <p>C 牛乳？</p> <p>T 2 あと、何でしょう？（絵カード「パン」提示）</p> <p>C パン。</p> <p>C <u>全部、白い</u></p> <p>C <u>全部、米でできている。</u></p> <p>C <u>めっちゃ、食べてる。</u></p> <p>T 2 あと、（絵カード「食油」提示）</p> <p>C 油。</p> <p>C <u>うわー、白だらけだ。</u></p> <p>C <u>白だらけ、白だらけ。</u></p> <p>C <u>全部米でできてるじゃん。</u></p> <p>C <u>全部、白いじゃん。</u></p> <p>T 2 白っぽいね。</p> <p>T 2 緑の元気玉は何かというと、（絵カード「にんじん」提示）</p> <p>C にんじん</p> <p>C <u>野菜か。</u></p> <p>C <u>分かった。野菜。</u></p> <p>C <u>野菜</u></p> <p>〈中略〉</p>	<p>・【言葉による伝え合い】T 2 に顔を向け、<u>注意して話を聞こう</u>としている。</p> <p>・【自立心】「今日も食べている」、「めっちゃ食べてる」と、学習の対象である食品を、自分の日常生活との関わりから捉え、<u>意欲的に学習に参加している。</u></p> <p>・【思考力の芽生え】「白い」、「米でできている」と、<u>黄色い元気玉（食品群）の食品の共通点について考えている。</u></p> <p>・【思考力の芽生え】にんじんが含まれる緑の元気玉の食品群は、<u>野菜の仲間であるという共通点を予想している。</u></p>

三つの元気玉(食品群)の食品の働きについて知る場面

T 2 なんでも赤と黄色と緑に分かれているのかというと、それぞれ、食べたときに、体の中に入ったときに、違う働きをしているからです。赤の元気玉は、食べると血や肉や骨を作ります。みんなの体に血はありますか。

C ある。

T 2 お肉も骨もありますね。

C 今日、ご飯の時にね、骨じゃなく、歯抜けた。

T 2 歯もそう。歯も作っているのは、赤の食べ物です。

C 歯も骨も。

T 2 それで、赤の元気玉の食べ物を食べると、みんなの体がどんどん強くなったり、大きくなっていきます。(絵カード「強い体」提示)

C むきむき。

T 2 そう、むきむきになります。

C むきむきだ。

C むきむきマンだ。

〈中略〉

T 1 赤の元気玉の働き、黄色の元気玉の働き、緑の元気玉の働き、分かったかな?もう少し、聞いてみたいことはありますか?

C 元気玉ね、いつも食べているけど、元気玉が全然見えない。

T 1 目には見えないかも知れないね。

C 多分、元気玉って、ご飯のところに、くっついているとか……。

T 2 ご飯とかの食べ物の中に、入っているの。中に。

C 透明になって?

T 2 うん、透明になって。

〈中略〉

様々な食品の絵カードを、班ごとに、三つの元気玉(食品群)シートに分ける場面

〈三つの元気玉シートを分担して持った班〉

C (絵カードを1枚取り、残りのカードを別の子供に渡そうとする。)

C 違う、A君でしょ。(班内で絵カードを取る順番について指摘し、カードを別の子供に渡す。)

C これだ。(取ったカードを、友達の持つ黄色玉シートに置こうとする。)

C なんで? 自分のやつ(緑シートの分担)、やるんだよ。じゃ、もう1回やって。緑のやつ選んで。

C (緑の分担の友達に)これ、緑。緑の人は緑、赤の人は赤。

C でもさ、違う色だったらさ、こうすればいい。(友達のシートに置く身振り)

〈分類が終わった班〉

C 僕(赤)、5種類。これ(黄色)、4種類。緑のは、1、2、3、4、5、6、7、7種類。

C 7種類

・【思考力の芽生え】自分の抜けた歯も骨に近いものであり関係があるのではないかと感じ、発言している。

・【言葉による伝え合い】「強い体。大きい体」を、「むきむき」「むきむきマン」と、自分の感覚にぴったり合う表現で確かめている。

・【思考力の芽生え】例に挙げられた食品を日常的に食べているにも関わらず、自分の目で元気玉を見たことがないことに疑問をもっている。

・【思考力の芽生え】目には見えていない元気玉がどのように食品に含まれているのかを予想している。

・【思考力の芽生え】実際に目視できない形で食べ物に入っていることをイメージ化して理解しようとしている。

・【協同性】班で活動するために机を並べ替える際に、「行き過ぎだよ」等と声を掛け合い協力している。

・【協同性】班内で考えた手順に沿って進めようとしている。

・【協同性】班内で、みんなが活動に参加できるように、分担して進めようとしている。

・【協同性】カードの分類を班で一緒に行う上でのより良い方法を工夫し提案している。

・【数量・図形、文字等への関心・感覚】色ごとに分類した食品の数が違うことに気付き、数を数えて確かめている。

C 緑のは、こっちに。茶色いのは、こっち。(緑の元気玉シート上に、食品の色で分けて食品カードを並べている。)で、でっかいのは、ここ。

〈中略〉

一昨日の給食に含まれる食材を、黒板上で三つの元気玉(食品群)に分類してみて気付いたことを話し合う場面

C じゃがいもは野菜だから緑だと思ったけど、黄色になったから、そうなんだなと思いました。

T 1 じゃがいもは野菜じゃないかなあって、Bさんは思ってたんだけど、黄色の「熱や力のもとになる食品」だったってことが、分かったそうです。Cさん。

C 最初、味噌は大豆でできたから……、だから、大豆と一緒に黄色か緑って迷ってたけど、でも、味噌と大豆が同じだったから、それに気が付いて、あ、こうなんだなあとと思いました。

〈中略〉

「ばくばくカード」による給食の完食調べの結果を振り返る場面

T 1 (グラフ「ばくばくカードしらべ」提示)
みんなの「ばくばくカード」、見てください。全部食べた人のは書いていないけど、△が何だっけ?

C 少し残した人。

T 1 少し残した人。×は?

C 半分ぐらい

T 1 半分以上、半分ぐらい残した人。これ見て、ご飯、牛乳、おつゆやスープには野菜、肉や魚が入っていました。魚、肉、野菜、何か気が付いたことがある人いませんか? Dさん。

C 野菜だけが、△がすごく多い。

T 1 野菜がすごい。他に、何かないですか? Eさん、何かないですか? これが1番多くて、他にないですか?

C おつゆやスープと野菜が多いです。

T 1 おつゆやスープも多いし、あとは?

C 魚。

〈中略〉

これからの自分の食事について考える場面

T 1 これから自分は給食をどうやって食べていこうかなって思ったことを発表してくれる人。

C 野菜をもっと食べたいと思いました。

T 1 拍手。H君、野菜を食べればどうなるんだっけ?

C 体の調子を整える。

T 1 体の調子を整えるからね。Fさん。

C はい。今度からあまり残さないで食べたいです。

C ご飯と野菜をいつも食べていなかったの、次からは食べたいです。

〈後略〉

・【思考力の芽生え】野菜の仲間が色によってさらに分けられると感じている。

・【言葉による伝え合い】学習を通して生まれた新しい気付きを伝えようとしている。

・【思考力の芽生え】味噌が大豆から作られていることと、同じ食品群に分類されることを関連付けて捉えている。

・【数量・図形、文字等への関心・感覚】グラフから、△の数が特に多い項目を読み取っている。

・【健康な体と心】自分の給食の食べ方を振り返り、生活を改善しようという思いを持っている。